

14. 21-639



1200501162916

21

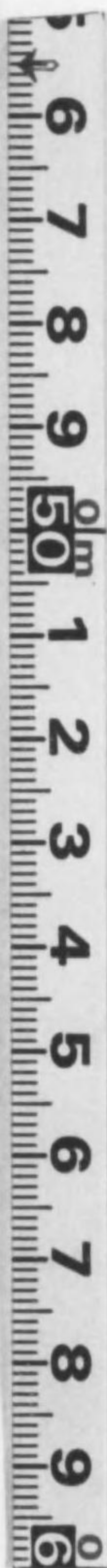
639

昭和六年十月

水産連絡試験要録

第參號

水産試験場



始



水產連絡試驗要錄 第參號

(昭和六年十月)

目次

一、第一回製造擔當官打合會議事要錄(昭和五年十月)..... 一—二〇

(一) 會議要領..... 一

(二) 決議..... 八

(三) 新規水產製品ノ研究会..... 二一

二、第一回養殖擔當官打合會議事要錄(昭和六年一月)..... 二一—三四

(一) 會議要領..... 二一

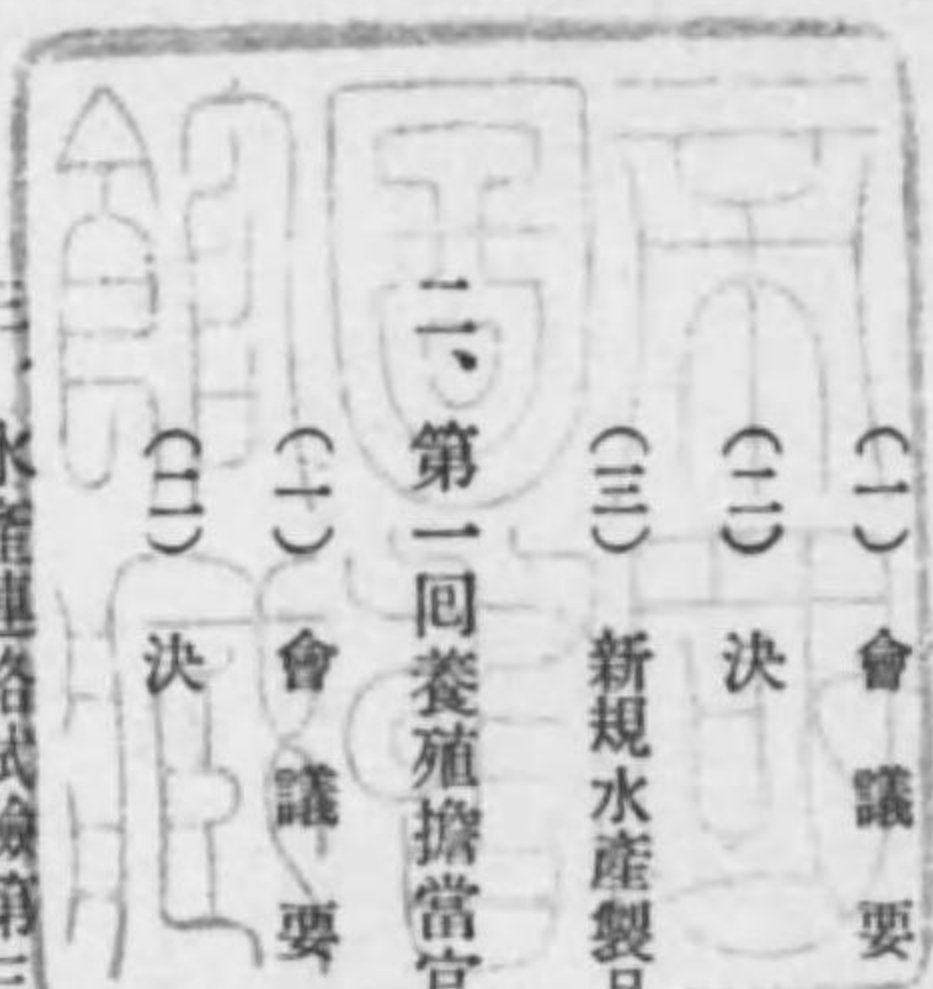
(二) 決議..... 三三

三、水產連絡試驗第三回打合會議事要錄(昭和六年六月)..... 三五—五四

(一) 會議要領..... 三五

(二) 會議..... 三九

(三) 決議..... 四五



四、連絡試験調査ニ關スル各種通知事項……………五五―七二

(一) 人工餌料試験調査ニ關スル事項(鱒親魚養成及鰻人工餌料)……………五五

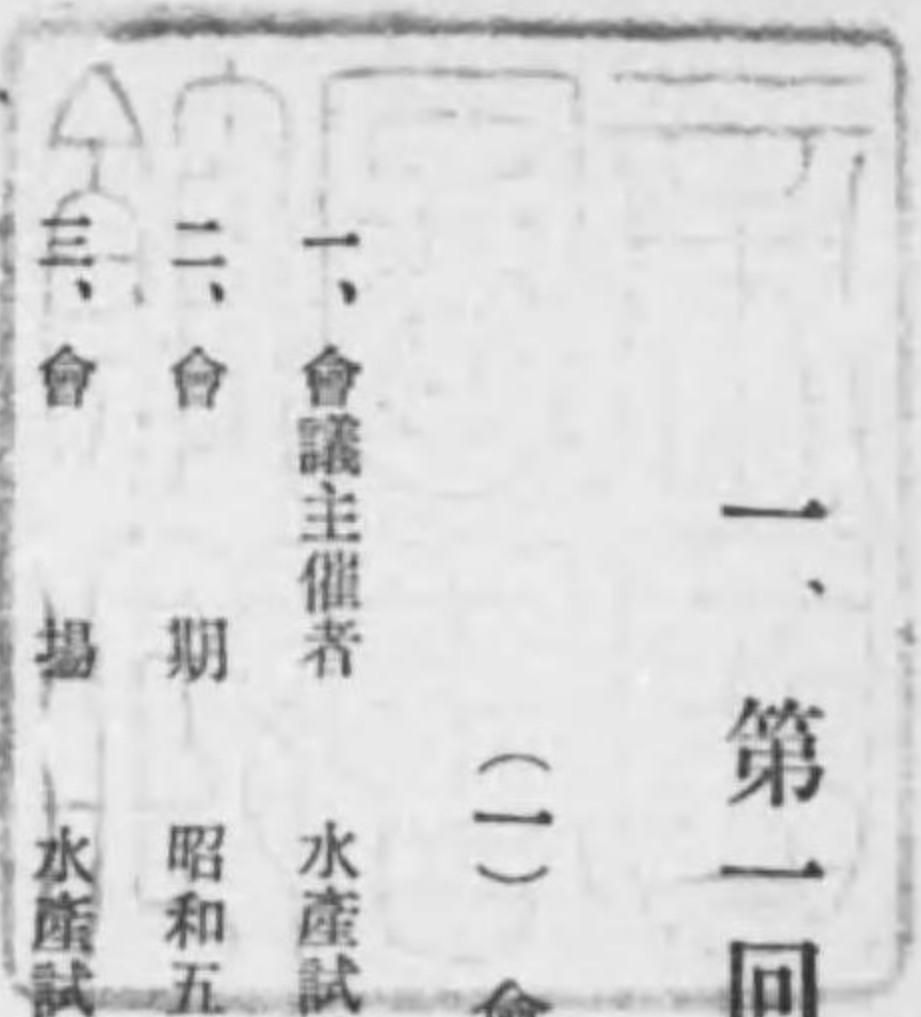
(二) 淺海利用試験調査ニ關スル事項 其ノ一(發生及生育條件調査票記入事項)……………五七

(三) 淺海利用試験調査ニ關スル事項 其ノ二(かき斃死原因並ニ豫防試験調査)……………六四

五、雜 錄……………七三―八〇

(一) 昭和五年度施行ノ連絡試験調査概覽……………七三

14.21-639



# 第一回製造擔當官打合會議事要録

## (一) 會議要領

- 一、會議主催者 水産試験場
- 二、會 期 昭和五年十月廿三日ヨリ同月廿五日迄三日間
- 三、會 場 水産試験場
- 四、日 程

第一日廿三日(木曜日)

會 議 備 考

午前九時開會以下同斷

- 一、連絡試験調査細目打合
- (一) 貝類加工製品試験ニ關スル件
- (二) 鱈加工製造試験ニ關スル件
- (三) 水産物冷凍適温試験ニ關スル件
- (四) 水産物乾燥試験調査ニ關スル件
- (五) 製造連絡基礎試験ニ關スル件
- (一) 水産製品ノ脂肪酸化防止試験

第二日廿四日(金曜日)

- (2) 水産製品ノ乾燥度ト貯藏期間ニ關スル試験
- (3) 罐詰内容物ノ熱傳導試験
- 二、製造ニ關スル地方提出問題打合

水産局長訓示

一、連絡試験ニ關スル經過報告

(一) 水産試験場

(イ) 小型魚糧製造機械

(ロ) 冷凍牡蠣ノ肉質ノ變化

(ハ) 鱈水煮罐詰ノ鱈脫水法

參考報告 (1) 魚肉ノ鮮度鑑定法

(2) 新規製品魚鱈(蒲鉾代用品)製法

(二) 地方水産試験場其他

講演 (午後五時、於赤阪三會堂)

一、罐詰ノ販路擴張ニ就テ

一、アメリカニ於ケル諸相

高碕達之助

野村 康雄

第三日廿五日(土曜日)

一、新規水産製品ノ研究会

一、審査、研究 (午前九時開會)

一、一般供覽 (午後一時ヨリ四時迄)

五、出席者

水産局長	長 瀬 貞 一
農林技師	宮 田 彌 治 郎
同	江 副 元 三
農林技師	篠 原 正 規
水産試験場長	春 日 信 市
水産試験場技師	木 村 金 太 郎
	源 生 一 太 郎
水産試験場技師	星 野 三 郎
	山 本 祥 吉
水産試験場技師	神 谷 尙 志 林 壽
水産試験場屬	淵 上 保 喜 中 野 清
同 助 手	岡 屋 忠 治 菰 田 太 郎 熊 倉 悟
	谷 川 英 一 増 田 與 橋 本 鶴 夫
地方廳 其他	

東京	池邊康彌	京都	眞瀬恒	神奈川	金子安治	兵庫	金井準	長崎	橋爪友四郎	新潟	小野太亮	千葉	松崎秀雄	千葉	山内勝夫	千葉	笹子治	茨城	薄井與兵衛	三重	井上三次郎	愛知	小林市治	静岡	村上芳雄	宮城	船戸正夫	福島	青木佳年	岩手	在田盛一	青森	熊澤楠吉	青森	奥津興美	山形	淺加茂敏	秋田	林田壽馬	福井	大内義男	石川	八島與信	富山	内田孝雄	富山	砂原作治	鳥取	羽部修	島根	増田秀治郎	廣島	河内吾郎	山口	吉本滿藏	和歌山	大橋哲郎	香川	宮内利夫	高知	増田駿	福岡	兼本盛光
----	------	----	-----	-----	------	----	-----	----	-------	----	------	----	------	----	------	----	-----	----	-------	----	-------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	-----	----	-------	----	------	----	------	-----	------	----	------	----	-----	----	------

大分	志村彦藏	佐賀	下井誠	熊本	村井英雄	沖繩	山下武雄	鹿児島	朝倉要三	宮崎	森谷茂	北海道	秋谷六三	北海道	吉田敬雄	全羅南道	松澤定五郎	慶尙北道	勝谷義一	朝鮮總督府	岩淵修平	臺灣總督府	兒玉政治	澎湖廳	同	拓務省	北川英夫
----	------	----	-----	----	------	----	------	-----	------	----	-----	-----	------	-----	------	------	-------	------	------	-------	------	-------	------	-----	---	-----	------

六、會 議

第一日。場長議長席ニ着キ連絡試験ノ趣旨目的ニ就キ説明アリタル後試験調査ノ細目打合ニ入ル。

貝類加工製品試験。木村技師ヨリ説明アリ。長崎縣ハ去ル十月八、九日福岡縣下ニテ開催ノ貝類罐詰業振興協議會ノ結果ニ就キ質問シ、福岡縣ハ其概要ヲ説述ス、次デ長崎、佐賀、沖繩、香川、各縣ト木村技師 議長トノ間ニ應答アリ、沖繩ハさざえヲ試験製品トシテ追加ノ希望アリタルモ之ヲ保留シ、香川ヨリ質問アリタルいたばがき、モかきノ一製品トシテ取扱フコトニ決定ス。

いわし加工製造試験。木村技師説明アリ。試験事項トシテ香川ハ、トマト注入法ノ外ニ注入量ノ追加ヲ、島根ハ、トマトノ染料ニ關スル化學的研究ノ追加ヲ提案シテ之ヲ決定シ、其ノ他油漬油ノ再製、製造中ニ起ル組織學的變化ノ研究等ノ試験事項並ビニ分擔項目中ニ油漬罐詰ヲ追加シ、參加者ノ協定及追加等ヲ決定ス。

水産物冷凍適温試験。源生技師ノ説明アリ、東京ハ試験事項トシテ冷蔵ノ追加ヲ提案シ、静岡、大分、臺灣等ノ賛成モアリ、結局、冷蔵ノ追加ヲ決定ス。又試験材料トシテ東京ハのりノ追加ヲ希望シ、臺灣、沖縄、福井、大分、千葉、福岡、静岡等ハマぐろノ追加ヲ希望シタルガ次回場長會議ニ提案スルコトナリ、鮭又ハ鱈ニ就テ静岡(將來參加)臺灣ノ參加ヲ決定ス。(以上午前)

水産物乾燥試験調査。星野技師ノ説明アリ。島根ノ試験事項ノ追加ニ關シ、又試験方法ニ就キ島根、大分、千葉、全羅南道、廣島等ヨリノ質疑ニ對シ場長並ビニ星野技師ヨリ應答アリ。島根ノ提案ニヨリ試験事項ノ分擔ニ就キ參加者懇談ノ爲メ委員會設置ニ決ス。

製造連絡基礎試験。試験項目中各種温度ニ於ケル鹽藏試験ハ參加者ナキヲ以テ中止シ、水産製品ノ脂肪酸化防止試験以下各項ニ就テ木村技師及星野技師ヨリ説明アリ。脱脂試験ニ就テノ參加者及酸化防止試験ニ就テノ脱退ヲ決定ス。水産製品ノ乾燥度ト貯藏期間ニ關スル試験ニ就テハ試験用原料ノ貯藏量七百匁以上ヲ三百匁以上ト改訂ス。

次デ地方提出問題ニ移ル。長崎縣ハ製品ノ販路開發ニ關シテ説明アリ、島根、富山等ヨリモ意見ノ開陳アリタルガ結局困難ナル問題ナレバ、有志ニヨリテ原案ヲ作製シ次回ノ打合會ニ充分討議スルコトニ決定ス。江副技師ハ鮭ノ連絡試験方法ニ就キ過去ノ實績ニ關シ實演的打合ヲ第一階梯トスル旨ヲ力説シタルモ、議決セズシテ終リ、議長ハ懇談ノ機會ヲ得ルコトニ就キ要望アリタル各試験項目ニ就キ委員會ヲ開催スルコトヲ諮リ、其委員ヲ指名シ直ニ委員會ニ移ル。

貝類加工製品試験及鰯加工製造試験ニ關スル委員會。千葉、神奈川、長崎、熊本、北海道、江副技師、木村技師。水産物乾燥試験調査ニ關スル委員會ハ參加者全部ヲ委員トス。

第二日。直チニ連絡試験ノ經過報告ニ入ル、木村技師ハ冷凍鮭ノ肉質ノ變化ニ關シ報告アリ。次デ水産局長ノ臨席ヲ見一場ノ訓示アリ。

鰯罐詰ニ就テハ、木村技師ニ次テ、熊本、北海道、長崎等ノ報告アリ、鮭水煮罐詰ハ福岡縣ノ報告アリ。

參考報告トシテ木村技師ハ魚肉鮮度鑑定法ニ就キ説明アリ(以上午前)午後一時ヨリ委員會報告アリ、貝類及鰯加工製造試験ニ關シ委員長吉田技師ヨリ報告アリ、又、水産物乾燥試験ニ關スル委員會ハ委員長ノ報告ヲ省略シテ各委員會決定事項ヲ可決ス。

次デ星野技師ハ小型魚類製造機械ニ就テ報告シ、島根、廣島等ハ何レモ魚類乾燥機試験ニ就キ報告シタル後議長ハ、本會議ノ閉會ニ就テ挨拶スル所アリ。

午後五時ヨリ三會堂ニ於テ、日程ノ通りニ氏ノ講演アリ(講演ノ後懇親會ノ開催アリ)

第三日。新規水産製品ノ研究會。水産試験場新製品魚罐製法ニ就テ木村技師ノ説明アリタル後陳列品ニツキ審査ニ移ル。猶、參考品トシテ、水産局江副技師ノ將來セルモノ及、日本罐詰協會出品ノ歐米諸國ノ罐詰ノ開罐試食アリ。

(二) 第一回製造擔當官打合會決議 (昭和五年十月)

一、貝類加工製品試験ニ關スル細目打合決定事項

試験事項ニ關スル事項

(一) 試験項目

- (3) 冷蔵及冷凍ノ試験項目ニ「イ」除殻ノ方法ヲ追加シ、イ以下順次各項ヲ繰下グ。
- (5) 製造加工中ニ起ル化學的及細菌學的變化ノ下ニ「並ビニ組織學的變化」ヲ追加シ、本項下(イ)罐詰、(ロ)加熱ノ及ボス變化ハ「加熱ノ及ボス化學的變化」ト訂正シ、(ロ)冷蔵ヲ「冷蔵及冷凍品」トシ、同條下(c)ノ次ニ「(d)組織學的變化」ヲ追加ス。

連絡ノ方法及分擔ニ關スル事項

(二) 分擔

- (1) 水産試験場ノ項中(1)罐詰ノ(ハ) 最後ニ「並ニ組織學的變化」ヲ追加ス。
- (2) ノ試験製品ノ種類ニ「冷凍及冷蔵品」ヲ加ヘ、其分擔試験項目ヲ、試験事項(二)試験項目中ノ(1)(2)(3)(4)(6)(7)ノ各項トス。
- (3) ノ分擔試験項目ヲ、試験事項(二)試験項目中ノ(1)(2)(3)(4)(6)(7)ノ各項トス。

二、いわし加工製造試験ニ關スル細目打合決定事項

試験事項ニ關スル事項

(一) 試験項目

- (2) 「トマト」漬罐詰ノ項中(ハ)油燻ノ條下ニ「再製」ヲ、(二)「トマト・ピニロー」ノ條下ニ「注入量」ヲ追加ス。
- (3) 油漬罐詰ノ項中(二)油燻ノ條下ニ「再製」ヲ追加ス。
- (5) 製造中ニ起ル化學的及細菌學的變化ノ下ニ「並ニ組織學的變化」ヲ加フ。
- (5) 項ノ次ニ左ノ一項ヲ新ニ追加ス。
- (6) 「トマト・ピニロー」ノ色素ニ關スル化學的研究。

連絡參加者ニ關スル事項

本項下ニ山形、福島、青森ヲ參加者トシテ追加ス。

連絡ノ方法及分擔ニ關スル事項

(二) 分擔

- 1 水産試験場ノ項中、(3)ノ最後ニ「並ビニ組織學的變化」ヲ加フ。
- 2 ノ參加者ニ山形、福島、青森、慶尚北道ヲ加ヘ、(1)試験製品ノ種類ニ「油漬罐詰・鹽藏」ヲ加ヘ其分擔試験項目ヲ試験事項ノ(二)試験項目(1)(2)(3)(4)ノ各項トシ、設備及經濟並ニ試賣ニ就テハ故ノ如シ。
- 3 本項ノ全部ヲ削除ス。

### 三、水産物冷凍適温試験ニ關スル細目打合決定事項

表題ニ關スル事項

本表題ニ冷蔵ヲ加ヘ「水産物冷凍冷蔵試験」トナス。

連絡方法及分擔ニ關スル事項

(3) 鯖(又ハ鯉)ノ参加者ニ臺灣ヲ加フ。静岡ハ將來参加)

附記(希望トシテ東京府ハのりニ就テ、臺灣、沖縄、福井、大分、千葉、福岡、静岡等ハまぐろニ就テ参加シタシトノ提案アリタルモ、のり、まぐろヲ試験材料トシテ追加スルコトハ次ノ場長會議ニ待ツコトニ決ス)

### 四、水産物乾燥試験調査ニ關スル細目打合決定事項

連絡方法及分擔ニ關スル事項

次ノ通り各其分擔項目ヲ決定ス。

(一) 海 苔

- 東京 (一)試験事項ノ(1)(2)(3)(5)(6)(7)(10)ヲ分擔ス(5)ハ中央ヨリ其方法ヲ提示ス。
- 廣島 (一)試験事項ノ(1)(2)(6)(7)(10)ヲ分擔ス。
- 愛知 (一)調査事項ノ(2)ヲ分擔シ、(一)試験事項ハ當分参加ヲ保留ス。
- 千葉 (一)試験事項ノ(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)(10)ヲ分擔ス(5)ハ當分保留ス。
- 神奈川 當分参加保留。

全羅南道 (一)試験事項ノ(1)(2)(2)ノ汚染度ヲ除ク(6)ヲ分擔ス。

(一) 鱈

- 長崎 (一)試験事項ノ(1)(2)(6)(7)(10)ヲ分擔ス。
- 大分 (一)試験事項ノ(1)(4)(5)(7)(10)ヲ分擔ス(5)ハ中央ヨリ其方法ヲ提示ス。
- 島根 (一)試験事項ノ(3)(5)及(一)調査事項(1)(3)ヲ分擔ス
- 廣島 (一)試験事項ノ(1)(2)(6)(7)(10)ヲ分擔ス。
- 兵庫 (一)試験事項ノ(1)(2)(6)(7)(10)ヲ分擔ス。
- 千葉 新ニ参加シ (一)試験事項ノ(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7)(10)ヲ分擔ス(5)ハ當分保留ス。
- 愛媛 未定。
- (三) 柔魚ニ就テハ未定。

### 五、製造連絡基礎試験ニ關スル細目打合決定事項

二、水産製品ノ脂肪酸化防止試験ニ關スル事項

第一脱脂試験ニ就テ 5 測定事項ノ次ニ「6 参加者 京都、福井、和歌山」ヲ追記ス。

第二酸化防止試験ニ就テ 3 参加者中ヨリ静岡、臺灣脱退ス。

三、水産製品ノ乾燥度ト貯藏期間ニ關スル試験ニ關スル事項

(一) 試験方法ノ(ロ)項中、一容量器ニ七百目以上ヲ貯藏スルコトヲ「一容器ニ三百目以上ヲ貯藏スルコト」ト改訂ス。



六、地方官衙提出問題

水産加工品ノ消費方面ニ於ケル各要素調査連絡ニ關スル件

説明 水産製品ハ加工技術ト消費經濟トノ連絡合理化ヲ特ニ必要トスルノミナラス其ノ配給ハ集約的ニ且ツ單純化ヲ圖リ生産者ヨリ消費者ヘノ「ストリート、ライン」ヲ必要トスル所ナリ。然ルニ從來ノ試験研究ハ往々生産方面ニノミ偏スルヤノ嫌アリ、仍テ消費方面ニ於ケル諸要素即チ消費ト習慣、嗜好、趣味及其ノ經濟關係等ニ涉リ統制アル連絡調査ヲナシ以テ需要價值ノ増大ニ資セムトス。

右ハ重要ニシテ適切ナル提案ナルモ更メテ具體案ヲ立案ノ上審議ヲ重ムルコトトシ懸案トシテ之ヲ保留ス。

希望事項

- 一、製造擔當官打合會ヲ毎年一回開催セラレタキコト。
- 二、製造擔當官打合會ノ協議ヲ尊重スル様中央ニ於テ取計ラハレタキコト。

長崎縣水産試験場

(三) 新規水産製品ノ研究會

趣旨、前記製造擔當官ノ連絡試験打合會ヲ機トシ各地水産試験場及水産講習所並ニ民間ニ於テ製造セラレタル水産物新規製品ニ關スル研究會ヲ開催シ官民専門家ノ忌憚ナキ品評ヲ乞ヒ水産製造技術ニ關スル知識ノ交換及其向上ヲ計リタリ。

審 査 研究會ニ來會シ品評ノ結果ヲ記入セラレタル専門家ノ氏名

地方府縣製造擔當官(打合會出席者)	水産局 農林技師	江 副 元 三	水産局農林技手	篠 原 正 規
水産講習所教授	深 山 義 道			
水産試験場技師	木 村 金 太 郎		外水産試験場製造係	
大日本水産會長	伊 谷 以 知 二 郎		逸見山陽堂 取締役	見 學 榮 二 郎
日本魚糧株式會社取締役	野 村 利 兵 衛		青森罐詰製造同業組合	西 啓
日本罐詰協會理事	大 宮 春 之 助		日本漁業株式會社	中 村 鑛 太
	米 井 俊 雄		三井物産株式會社	野 村 康 雄
東京銀座松屋食料品部長	伊 勢 辰 二		食料品問屋	安 藤 俊 吉
審 査 ノ 方 法	弓 削 讓		其 他	

固形物 香味、色澤、形態、硬度

第一回製造擔當官打合會議事要録

水産連絡試験要録 第三號  
液汁 潤濁、香味、色調

等ニ就キ上、中、下、ヲ以テ其結果ヲ表示記入シ上ハ三〇點中ハ二〇點下ハ一〇點トシ其平均ヲ總評點トナセリ。  
一、水産新製品製造法ノ大要其他

府縣	製品名	罐型	重量	罐ノ大サ	原價	製年月日	製造法大要	備考
山口	大羽鰯水	大打階	四五〇	高短徑 一、三、五、 一、四、二、五	〇、一一一	昭和 五、一、一五、〇	調理後飽和鹽水ニ四時間浸漬シ乾燥後罐詰トナス	
熊本	鰯「ボイルド」	同上	四五〇	高短徑 一、三、五、 一、二、五、二、五	〇、一一九 (レツテル ヲ含マズ)	昭和 五、二、〇	頭及内臓ヲ除去洗滌日乾後生詰トス	
北海道	鰯水	同上	四六七	高短徑 一、三、五、 一、二、三、〇、〇	〇、〇九五	昭和 五、一、〇、一〇	生詰トシ罐ノ儘十五分間煮熱シ液汁ヲ除去後罐詰トナス	
水中試尖	鰯水	半同田付上			〇、一一五	昭和 五、一、〇、一六	調理後二五%鹽水ニ六〇分間浸漬シ後三〇分間壓搾シ脱氣一〇分間殺菌六〇分	
山形	鰯水	一斤堅罐 (ツカカ)	五〇二、五	高短徑 二、三、二、五、 二、二、五、五	〇、三五〇	昭和 四、三、二、〇	閉切セル鰯ヲ生詰シ罐ノ儘蒸熱シ冷却セル内急速ニ巻締メテシテニ排氣セズ	
北海道	鰯魚水	一斤堅罐 (ツカカ)	一五四	高短徑 三、二、九、五、 三、〇、〇	〇、一四〇	昭和 五、九、三	煮熱剥皮後罐詰トシ母氏鹽水六度ヲ二〇分注入	
福岡	鰯(蒸)鰯(刺)	同上	三七五	高短徑 三、二、三、五、 三、七、五、五	〇、一二〇	昭和 五、三、二、五	本場考案ノ蒸刺鰯ニヨリ蒸刺セリルヲ洗滌水切後罐詰セルモノナリ	
沖繩	鰯(刺)	同上			〇、二〇〇	昭和 五、八、〇	肉詰シ母氏四度ノ鹽水ヲ注入ス	

府縣	製品名	罐型	重量	罐ノ大サ	原價	製年月日	製造法大要	備考
山形	鰯白鰯	平一	五五五	高短徑 二、三、二、五、 二、二、五、五	〇、一三〇	昭和 五、二、二、三	鰯白子ヲ生詰シ罐ノ儘蒸熱シ冷却セル内急速ニ巻締ム	
兵庫	鰯「トマト」	打拵	一六〇	高短徑 〇、二、三、 〇、七、四、九	〇、一一一	昭和 四、一、〇、二〇	調理乾燥後油燻シ罐詰トス	
北海道	鰯「トマト」	小打拵	三〇〇	高短徑 一、二、四、 〇、七、二、〇	〇、一〇五	昭和 五、一、〇、一五	母氏一。五度鹽水ニ二五分浸漬後乾燥シ油燻シ肉詰後「トマト」ノ「トマト」ニ注入	
青森	鰯「トマト」	平一	五三六	高短徑 二、三、一、三、 二、四、〇	〇、二〇〇	昭和 三、七、〇	生詰ヲ三枚ニ卸シ適當ニ切斷後鹽水ニ浸漬シタルモノヲ肉詰シ蒸熱剥皮後罐詰トシ母氏鹽水六度ヲ二〇分注入密封殺菌	
沖繩	鰯「トマト」	同上	二八一、五	高短徑 一、二、二、五、 〇、五、〇	〇、二〇〇	昭和 五、九、〇	蒸熱シテ肉詰シ「トマト」ノ「トマト」ニ注入ス	
福岡	鰯(蒸)鰯(刺)	同上	三四一、五	高短徑 二、二、二、〇、 三、三、三、五	〇、一六〇	昭和 五、九、一八	蒸刺シ稀薄鹽水ニ浸漬シルヲ充分水切後少量ノ「サラダ」油ヲ添加シタル「トマト」ノ「トマト」ト共ニ罐詰トス	鰯ハ生原料係上蒸刺水者ノヲ開罐使用シタリ
富山	鰯「トマト」	同上						参考出品
兵庫	中羽鰯油	拵	二〇〇	高短徑 〇、二、三、 〇、七、四、九	〇、一一〇	昭和 五、一、〇、一〇	調理乾燥後油燻シ罐詰トス	
長崎	鰯「トマト」	同上	一六七	高短徑 〇、二、三、 〇、七、六、〇	〇、一一〇	昭和 五、一、〇、一〇	中羽鰯ヲ僅ニ乾燥シ油燻シテ香料ト共ニ油燻シ罐詰トス	

新 潟	沖 繩	沖 繩	千 葉	千 葉	福 岡	山 形	北 海 道	熊 本
製大羽 鱈油燻	漬棍 木鱈 油燻	漬棍 木鱈 油燻	燻製秋刀 魚燻	燻製秋刀 魚燻	燻製南 鱈燻	鱈魚	鱈魚	鱈魚
半斤燻	「ツナ」燻	「ツナ」燻	「アンカー キャップ」 燻	「アンカー キャップ」 燻	味付 鱈燻	鱈燻	鱈燻	鱈燻
二四三、五	二八一、五	二八一、五	三七五	三七五	一九八、六	四六九	四一五、五	二二五
高直徑 二、二五〇	高直徑 一、二五〇	高直徑 一、二五〇	高直徑 一、二五〇	高直徑 一、二五〇	高直徑 一、二五〇	高直徑 一、二五〇	高直徑 一、二五〇	高直徑 一、二五〇
〇、一二九	〇、二五〇	〇、二五〇	〇、二五〇	〇、二五〇	〇、一六二	〇、一五〇	〇、一五〇	〇、一六二
昭和五、二三	昭和四、一二	昭和四、一二			昭和五、二七	昭和五、二七	昭和五、二七	昭和五、二七
三枚ニ卸シ鹽水漬シテ後胡麻油ニテ油燻シ糖油、砂糖混合調味液ヲ加ヘ燻結ス	入ス	入ス	燻製秋刀魚ヲ皮付正肉ノミトシ肉燻製後給油ヲ注入密封	燻製秋刀魚ヲ皮付正肉ノミトシ肉燻製後給油ヲ注入密封	燻製南鱈ヲ南鱈燻ニセル	鱈魚燻	鱈魚燻	鱈魚燻

佐 賀	北 海 道	山 形	北 海 道	北 海 道	北 海 道
鱈燻 紅 詰燻	鱈魚 味 詰付	鱈魚 甘 詰煮	同 上 (IV)	鱈魚 身缺 味付 (I)	鱈魚 ハ ツ 目 鱈
「シー」 「オ」 燻	堅一 燻斤	平一 燻斤	同 上	平半 燻斤	九 燻基
三六三、五	四五四	四五〇	—	二五八	一四六
高直徑 三、二五〇	高直徑 三、二五〇	高直徑 三、二五〇	同 上	高直徑 三、二五〇	高直徑 三、二五〇
〇、〇七〇	〇、一七〇	〇、四〇〇	同 上	〇、一三〇	〇、一五〇
昭和五、一四	昭和五、一二	昭和五、一〇	—	昭和五、七、〇〇	昭和四、一〇、〇
生刺網ヲ一旦水煮シ後油ヲ加味セル調味液ニテ燻詰トス	砂糖一〇〇、〇、鹽三〇、〇、水一、〇、〇、調味液ニテ燻詰トス	砂糖一〇〇、〇、鹽三〇、〇、水一、〇、〇、調味液ニテ燻詰トス	砂糖一〇〇、〇、鹽三〇、〇、水一、〇、〇、調味液ニテ燻詰トス	砂糖一〇〇、〇、鹽三〇、〇、水一、〇、〇、調味液ニテ燻詰トス	砂糖一〇〇、〇、鹽三〇、〇、水一、〇、〇、調味液ニテ燻詰トス

山口	「かぢめ」佃煮	半斤罐	二〇〇	高直徑 二、二五〇	〇、〇九七	五昭和 九、一、二	水ニ一晝夜浸シテ水ニテ煮熟シ ナス醬油、砂糖ニテ調味シ罐詰ト
新潟	大羽鹽味淋	味淋乾罐詰	二六二、五	高直徑 二、〇二五	〇、一三一	四昭和 五、二七	味淋干製造ノ要領ニヨリ調味シ 罐詰ス
山形	「こく」	味噌汁罐詰	五六二、五	高直徑 二、二五五	〇、三五〇	五昭和 二、一	汁ヲ注入ス
朝鮮慶尚北道	和布入り味噌汁ノ素罐詰	一平一罐斤	四八九	高直徑 二、五五	〇、一五	五昭和 三、一、二	(1)原料ハ乾燥和布ヲ用ヒ之ヲ 淡水ニ浸漬シテ元ニ戻シ洗滌 シ細砂汚物ヲ除キ中輪ヲ去リ 一寸内外ニ細割ス (2)配合材料ハ白味噌ニ一割 赤味噌ヲ五割目入シ之ヲ更ニ細 ノ金網ニカケテ裏流シナス (3)調味料ハ「出シ昆布」ヲ淡水 ニ浸漬シ之ヲ平釜ニ移シ文火 ニテ一時間煮熱シ之ニ煎シ火 加ヘ出シ液ヲ作リ前記ノ味噌 ヲ入レ適當ノ濃度トシ味噌 ヲ肉罐ハ空罐ノ濃度トシ味噌 ヲ本假秤量シ之ニ味噌ヲ注入シ テ假秤量シ之ニ味噌ヲ注入シ テ假秤量シ之ニ味噌ヲ注入シ
長崎	「サードンベ」	「ベースト」罐詰	九三、五	高直徑 〇、二、八五〇	〇、〇七〇	五昭和 八、一九	大羽鹽ヲ油漬トシ熱成シタル時 播漬シテ「ベースト」罐詰トス

長崎	「シュリンプ」	「ベースト」	九三、五	高直徑 〇、二、八五〇	〇、〇八八	五昭和 八、一五	えびヲ蒸制キニシ播漬シテ少量 ト「ベースト」其他ニテ調理シ罐詰
佐賀	「ベースト」	同	九七、五	高直徑 〇、二、八〇〇	〇、一七〇	五昭和 三、一、四	生刺身ヲ水蒸シ後播漬シ罐詰 ト品ヲ加ヘツ、加熱煉製シ罐詰
福岡	「アンプロ」	「ベースト」	四一、六	高直徑 一、一、九〇〇	〇、一八〇	五昭和 四、一八	本場詰ノ特長ハ苦味有リ鮮綠色 ヲ保全セシムルニ依テ一旦且 鹽漬トセルヲ良ク脱鹽シテ充 換水ニ浸漬シ去セル後水切リ シニ紅薄色ヲ除キ播漬シ之ニ 糖布糊等ヲ添加シテ肉詰メセル モノ
神奈川	「アンプロ」	「ベースト」	一〇三八、五	〇、六七〇	五昭和 三、四	罐詰ニ立置後三枚ニ卸シ湯 チ密封ス	鯛ヲ鹽蔵(立置)後三枚ニ卸シ湯 チ密封ス
福岡	「ハム」	「ベースト」	〇、五五〇	〇、五五〇	五昭和 九、二〇	原料ヲ四ツ割トナシ鹽漬、煉製 ヲ「ハム」式トス	鮭又ハ鰯等ノ精肉ノミヲ取り適 度ニ播漬シタル後「チヨッパ」 ニ掛ケ食鹽精製油細切セル球 葱其他ノ調味料ヲ加ヘ且ツ合 加ヘタル後良ク洗滌セル食紅ヲ ニ充ルニ及ビ湯中ニ投ジツ、 硬化スルニ及ビ湯中ニ投ジツ、 「チヨッパ」ニ掛ケ時間短縮シテ製 了ス
北海道	「フィッシュ」	「ベースト」	二二二、五	〇、三〇〇	五昭和 一〇、八	三七五瓦ニ昭和 〇、三〇〇	参考出品
福岡	「ハム」	「ベースト」	一〇三八、五	〇、六七〇	五昭和 九、二〇	参考出品	

同	北海道	水中 試魚	山口 清	東京 濱 少 ふ	和歌山 立貝 鹽辛	神總 乾 雲 丹
鹽乾「ベラサガ」	子	紙 膠腸 引盤 詰包	銚	—	塩 詰	—
—	一 一 五 一 八	一 三 五 〇 〇 五	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
—	〇 二 八 〇	〇〇〇 五 〇〇〇 〇〇〇	—	—	—	—
—	四 昭 和 九 〇	五 昭 和 一 〇 、 二 三	—	—	—	五 昭 和 八 、 〇
無頭、無骨トナシ更ニ骨及骨筋ニ接スル部分ヲ去リ五分鹽ニテ加鹽シ翌日洗滌ノ上樽又ハ袋上ニ日乾ス	江門部少許ヲ開キ脱腸シ母氏三度ノ鹽水中ニ三十分間煮沸シ直ニ焙鹽シテ火乾ス、後焙乾ト日乾トヲ併用シ乾了ス	魚肉蔬菜類(球葱、胡蘿蔔、牛蒡等)脱脂乳、植物油、澱粉、味ノ素、鶏卵等ヲ攪漬シ蒸煮シタルモノ	—	—	—	生「うに」ヲ水洗シテ薄色、鹽水ニテ煮、日乾、焙乾ス
リ 八 タ ル ノ 百 斤 ア 十	賣 セ ラ ル 二 十 三 兩 ニ 販	同	同	同	同	同

(附記).....本研究會ノ品評概要其他ノ記事ハ雑誌時報第十卷第六號(昭和六年六月發行)ニ詳細發表ス

## 第一回養殖擔當官打合會議事要録

### (一) 會議要領

一、會議主催者 水産試験場

二、會 期 昭和六年一月二十二日ヨリ同月廿四日迄三日間

三、會 場 中央會議所(丸ノ内)

四、日 程

第一日 一月二十二日(木曜日) 午前十時開會

一、連絡試験調査ノ細目打合

(一) 淺海利用試験調査

(二) 内水面利用試験調査

水産局長訓示

第二日 一月二十三日(金曜日)

(三) 水質汚濁ト水族トノ關係調査

午前九時半開會

第一回養殖擔當官打合會議事要録

第三日 一月廿四日(土曜日)

午前九時半開會

- (四) 人工餌料試験調査
- 一、連絡試験調査ノ施行ニ關スル一般的打合
- 一、連絡試験調査ノ成績發表
- 各縣一題乃至二題ニ付其成績要領ヲ發表シ相互ニ討議研究ス(其要領ニ就テハ豫メ百部宛ノ假綴ノ送附ヲ受ケ之ヲ配布ス)

五、出席者

水産試験場技師	中野宗治	水産局長	長瀬貞一
梶山英二	農林技師	徳久三種	
關晴雄	同	鴨脚七郎	
水産試験場技師	水産試験場長	春日信市	
神谷尙志	藤森三郎	關根秀三郎	
水産試験場屬	松井佳一	川尻稔	
水産試験場技師	大島信夫		
水産試験場屬	中野清		

水産試験場囑託	水野復一郎	東京	五十嵐俊藏
同 助手	日下部臺次郎	京都	落合清
	植松正	神奈川	瀧澤武雄
		長崎	岩井準平
		埼玉	澁谷雄一郎
		千葉	永見兼重
		千葉(縣廳)	谷澤保二
		栃木	拂川梯之助
		愛知	幸田伴治郎
		滋賀	向山豐之進
		長野	青木三雄
			後明喜好
		東京	山田一男
		神奈川	前田九平
		兵庫	齋藤敏夫
		新潟	越田秀包
		群馬	石井省一郎
		千葉(分場)	舟橋清
		茨城	石川龜好
		三重	牧義男
		愛知	内田泰二
		静岡	稲葉俊
		岐阜	野澤鑑
		宮城	神崎陽吉

福島	技手	木村 健郎	岩手	技師	小林 忠次
青森	技師	千葉 茂松	山形	技師	小林 彦四郎
秋田	技師	赤根 金太郎	福井	技師	日比谷 爲造
石川	技師	吉田 潔	富山	技師	市島 宇八
島根	技師	澁谷 光時	岡山	技手	林 滿作
廣島	技師	牧野 謙二	廣島	技手	田村 松太郎
山口	技手	小川 千秋	山口(分場)	技手	八尋 武良次
和歌山	技手	木下 虎一郎	徳島	技手	野口 利夫
香川	技手	井上 良治	愛媛	技師	三宅 仙吉
高知	技手	宮崎 廣三	福岡	技手	海部 清利
熊本	技師	長田 正男	宮崎	技師	吉武 實
北海道	技手	梶田 與之亮	慶尚南道	技手	杉浦 秋一
全羅南道	技師	金子 政之助	臺灣	技手	江熊 哲翁
關東廳	技手	大槻 洋四郎	拓務省	技手	北川 英夫
全羅北道	技手	安藤 孝	小笠原支廳	技手	遠山 宜雄

六、會 議

第一日。春日場長議長席ニ着キ開會ノ挨拶アリタル後直チニ議事ニ移ル。

連絡試験調査ノ細目打合。

一、淺海利用試験調査。藤森技師ノ説明アリ、次デ水産局長ノ臨席ヲ見、一場ノ訓示アリタル後かきニ就テ協議ヲ進メ  
 宮城、千葉、和歌山、全羅北道、徳島、廣島、宮城、全羅南道、福岡等ヨリノ質疑ニ對シ、夫々應答アリ。岡山ハか  
 き斃死原因ニ關シ、連絡試験ノ必要ヲ提案シタルガ其決定ハ次回場長會議ニ譲ルコトニ決定ス。全羅南道ハ雄かきノ  
 生殖腺ノ發達程度ヲ測定スル規準明瞭ナラザルヲ以テ雄ニ就テハ其ノ記入ヲ省キ雌ノミニヨルコトヲ提案シ之ヲ決定  
 ス。廣島縣ハかき剥身ノ水切狀況、程度並ニ其方法及剥身ノ乾燥ノ程度ニ就キ質問シタルガ之ニ對シ追テ中央ヨリ通  
 知スルコト、又宮城ハかき種苗ノ大サノ定義ヲ質問シタルガ其限定ニ就テハ追テ中央ヨリ通知スルコトニ決定ス。次  
 デかき發生生育條件調査ニ關シ、参加又ハ脱退ニ就キ之ヲ議場ニ諮リ、脱退ニ就キテハ議長ヨリ保留ヲ希望シ、かき  
 養殖試験ニ就キ高知、徳島ノ新参加ヲ決定ス。關技師ハいたばかき生育條件調査ノ連絡ヲ希望スル府縣ハ後刻申出ア  
 リタシト述ブ。次デあさり、あさくさのり、あはびノ順序ニ藤森技師ノ説明アリ。神奈川、静岡、千葉、慶尚南道、  
 福井、岩手等ノ質疑ニ對シ夫々應答シ、静岡ヨリ底棲生物ノ量ノ測定規準ニ就テノ質問ハ單位面積ヲ決定ノ上中央ヨ  
 リ通知ノ事トナリ、又慶尚南道ヨリ種苗ノ定義ニ關スル質問ハ調査府縣ノ意見ヲ綜合シタル上ニテ決定スルコトトナ  
 ル。次デ以上ノ参加又ハ脱退ヲ諮リタルガ和歌山ノあさくさのり養殖試験脱退ノ申出アリタルノミナリ。淺海利用ノ  
 一部及内水面ニ就テハ日程ヲ變更シテ第二日ニ譲ル。

第二日。藤森技師ハ昨日ノ質問中あはびノ種苗ノ大サニ就テハ段長三セ、メ、迄ノモノト決定シ、かき産卵期調査ニ於テ

雌ノ卵ニ就テノミ熟否ヲ調査スル事ニスルモ尙雄ニ就テモ研究ヲナスコトヲ申合ス。次デ關技師ハいたばがきノ生育條件調査ニ就キ十七府縣ノ參加ヲ報告シ配布ノ印刷物ニ就キ説明シ、調査ニ關シ、香川、宮城、廣島、和歌山等ノ質疑ニ對シ應答スル所アリ。

二、内水面利用試験調査。中野技師ノ説明アリ。滋賀、群馬、京都、長野、兵庫、岐阜、徳島、山形、島根等ヨリノ質疑ニ對シ夫々應答アリ。次デ參加ニ關スル協議ニ入ル。青森ハ河川利用試験ヲ脱退シ、湖沼利用試験ノ參加ニにちまナラ追加ス。宮城ハ參加ヲ保留シ、廣島ハあゆニ就テ參加保留、京都又湖沼利用ニ就テさけ、ますヲ保留ス。秋田ハますトアルヲます類トシテ參加ス。和歌山ハ河川利用ニ於テ稚あゆニテ參加ノ申出アリ夫々決定ス。(以上午前中)

三、人工餌料試験調査。中野技師及關根技師ノ試験ノ實施ニ關スル説明並ニ注意アリ、熊本、長野、滋賀、岐阜、東京、山形等ノ質疑ニ對シ中野、關根、松井各技師ヨリ夫々應答アリ。次デ參加ニ關スル打合ニ入り、高知ハ鮭鱒人工餌料試験ニ就テ脱退シ、茨城ハ鰻人工餌料試験ニ參加、愛知、神奈川、福岡ハ鰻人工餌料試験ヨリ脱退ノ申出アリ。

四、水質汚濁ト水族關係調査。中野技師ノ説明アリ。岐阜、富山等ヨリ水質ノ分析ハ中央ニテ施行セラレタシト希望アリ、議長及中野技師之ニ應へ、富山ノ質問ニ對シテハ關根技師ノ説明アリ。徳島ハ本試験ニ參加ヲ希望セリ。

次デ議事トシテハ連絡試験調査ノ施行ニ關スル一般的打合アルモ第三日ニ繰越シ直チニ成績發表ニ入り、滋賀、富山及本場豊橋分場ノ水質ニ關スル調査及試験ノ發表アリ。岩手ヨリノ質問ニ對シ徳久技師ハ水質汚濁ニ關スル法案ノ成行ニ就テ説明スル所アリ。次デかき、のり、ふのり、えびニ關スル成績發表ニ入り、別表ノ通り適當ニ選擇シタル府縣ノ講演

アリ。

第三日。開會直チニ成績發表ニ移リ、さけ、ますニ關シ滋賀以下八ヶ所ノ發表アリタル後水産局徳久技師ハ用途指定國庫補助ノ査定ニ關シ解説アリ、各府縣ノ希望ニ就キ申出ラレタキ旨ヲ述ブ。引キ續キあゆニ關スル成績發表ニ移リ、京都以下五ヶ所ノ發表アリ。(以上午前中)

次デ鮑ニ就テ岩手、慶尙南道、千葉。鰻ニ就テ愛媛、神奈川、静岡。色鯉ニ就テ新潟ノ發表アリテ成績ノ發表ヲ打切り、次デ最後ノ議事ニ移ル。

連絡試験調査ノ施行ニ關スル一般的打合

熊本、神奈川、石川、全羅南道、廣島等ハ交々擔當官打合會ニ關シ意見ノ開陳アリ、會期ヲ延長シテ毎年一回開催セラレタシト要望シ滿場之ニ賛成ス。富山、滋賀、石川、徳島等ハ水質ノ研究ニ就テ、中央ニ於ケル實施ノ速カナラシコトヲ要望ス。長野ハ人工餌料ハ、地方ノ優良ナル材料ニ就キテモ實施サレタシト述べ、徳島ハ魚梯ノ研究ニ就テ、富山ハ中央ノ地方指導ニ就テ意見ノ開陳アリ、福岡ハ淺海利用試験ニ於テ害敵被害試験ヲ連絡試験項目ニ追加セラレタシト、要望ス。次デ議長閉會ノ挨拶ヲ述べ、全羅南道ハ參會者ヲ代表シテ挨拶スル所アリ。

散會。

(第一日ニ淺海利用試験調査及内水面利用調査ノ今日迄ニ於ケル經過並ビニ今後ノ進行豫定ニ就キ表記シテ提出スル様印刷物ヲ配布シ、最後ニ之ヲ蒐メタリ。鮭、鱒親魚養成用人工餌料試験ニ關スル通知事項及分析材料送附ニ關スル通知事項ヲ印刷物トシテ出席關係府縣ニ配布シ。いたばがき生育條件調査ニ就テモ參加府縣ニ調査票ノ配布ヲナス。)



試験調査成績之發表

×印ハ假刷ノ提出アリタルモノ

○印ハ打合會ニテ講演アリタルモノ

無印ハ成績發表ノ申出デアリタルモノ

(鹹水養殖之部)

「いせゑび」「くるまゑび」

○×龍蝦生態調査

車蝦ノ研究

○×車蝦ノ生活力ニ就テ

「あさり」「はまぐり」

×鯛及蛤ノ發育ト水温トノ關係

「かき」

×垂下式養殖ノ現状ト被害ニ就テ

○×伊勢灣奥部干潟ニ於ケル「まがき」附着時期及生長度ニ就テ

○×輸出向「種がき」採苗並ニ牡蠣垂下試験

和歌山縣  
熊本縣  
水産試験場(大長分場)

千葉縣

三重縣

愛知縣

宮城縣

○×垂下式牡蠣(まがき、いたばがき)養殖試験成績ニ就テ

○×垂下式養殖被害狀況

×紀州沿岸ニ於ケル牡蠣ノ穿孔介

淺海利用試験(牡蠣發生條件調査)

×垂下式養殖試験

「すみのえがき」被害研究

○昭和五年度ノ牡蠣ノ發生

×淺海利用試験調査(牡蠣發生及生育條件)

○×大連灣内ニ於ケル牡蠣稚貝發生ニ就テ

○×香川縣下ノ板南牡蠣採苗試験成績

×牡蠣池中採苗ニ就テ

○×いたばがき採苗試験

○×すみのえがきノ産卵期ト附着時期ニ就テ

○×まがきノ養殖用採苗器トシテ針金浜ニ就テ

「のり」「ふのり」

○×降雨量ノ消長ト海苔ノ豐凶

第一回養殖富官打合會議事要録

岡山縣  
山口縣  
和歌山縣  
徳島縣  
愛媛縣  
佐賀縣  
熊本縣  
臺灣總督府  
關東廳  
香川縣  
水産試験場(大長分場)  
同(二見分場)  
福岡縣  
廣島縣  
東京府

○× 海藻増殖試験

「あはび」其他

× 鮑増殖試験成績

○ 鮑標識用トシテ「マイル」ノ應用ニ就テ

○× 鮑ノ増殖試験並ニ其發生生育條件調査ニ就テ

× 鮑ノ棲息場ノ海況ト産卵期ニ就テ

鮑ノ成熟期ニ就テ

鯛ラーパー飼育ノ完成ニ就テ

(淡水養殖之部)

「さけ」「ます」類

「やまめ」ヲ種苗トセル親魚養成豫備試験

○× 魚道ニ於ケル魚族ノ週上狀況ニ就テ

○× 内水面利用種苗調査成績

○× 河川利用「ます」養殖試験

○× 「さけ」「ます」稚魚飼育人工餌料豫備試験

○× 呼吸ヨリ見タル鱒類池中飼育量決定ニ就テ

長崎縣

長崎縣

千葉縣

岩手縣

山口縣

慶尚南道

水産試験場(大長分場)

神奈川縣

群馬縣

滋賀縣

同

同

岐阜縣

長野縣

福島縣

青森縣

福井縣

北海道

水産試験場(木崎分場)

京都府

兵庫縣

愛知縣

滋賀縣

山形縣

福島縣

岡山縣

徳島縣

水質汚濁

○× 河川利用試験「あゆ」

× 小鮎移殖放流試験ニ就テ

× 河川利用試験「あゆ」

○× 琵琶湖産小鮎ノ移殖成績

○× 小鮎ノ産卵及稚魚ニ關スル研究

× 海岸部ニ於テ捕獲セル稚鮎ノ移殖成績ニ就テ

○× 海中小鮎ノ淡水移殖

○× 鮎複式増殖試験成績

「あゆ」

○× 混成餌料ニヨル鱒稚魚飼育ニ就テ

× 鱒稚魚飼育用人工餌料試験成績

○× 湖沼利用試験(白鱒)

○× 虹鱒人工餌料試験成績

○× 沼澤沼ノ「ます」類移殖試験及蕃殖狀況

○× 紅鱒ノ池中養殖試験ニ就テ

- × 水質汚濁ト水族トノ關係調査
- × 水質汚濁ト水族トノ關係調査
- × 工業藥品ノ魚類ニ及ボス影響ノ試験調査
- × 仔鰻ニ對スル鹽類電解質ノ致死濃度ニ就テ  
(水質汚濁ト水族トノ關係基礎研究)

〔い ひ〕

- × 内水面利用試験調査(色鱈ニ就テ)

〔う なぎ〕

- × 鰻ノ養殖試験ニ就テ
- × 養殖箱ニ依ル流水養鰻試験
- × 「シラス」鰻養成試験
- × 鰻人工餌料試験
- × 人工餌料試験調査(うなぎ)

滋賀縣	富山縣	北海道	水産試験場(豊橋分場)	新潟縣	東京府	神奈川県	静岡県	愛媛縣	臺灣總督府
-----	-----	-----	-------------	-----	-----	------	-----	-----	-------

(二) 第一回養殖擔當官打合會決議 (昭和六年一月)

(一) 淺海利用試験調査

一、かきニ關スル事項

一、連絡參加地方及分擔中 (二) 發生及生育條件調査ノ項ニ「(ロ)いたばがき生育條件調査、岩手、宮城、千葉、神奈川、静岡、愛知、和歌山、兵庫、徳島、香川、岡山、廣島、愛媛、山口、高知、長崎、福井及水産試験場」ヲ追加シ、従前ノ記載ハ「(イ)まがき發生及生育條件調査」ト前書キスルコト。

一、連絡參加地方及分擔中 (三) 養殖試験ノ (2) 垂下式養殖試験ニ新ニ「徳島、高知」參加ス。

一、あさくさノリニ關スル事項

一、養殖試験ニ於テ和歌山縣脱退ス。

一、各種發生及生育條件調査票ノ記入ニ關スル件

協議中、調査票ノ記入事項中調査ノ標準、程度其他ニ就テ疑義ヲ生ジタル多數ノ箇條ニ就キテハ追テ中央ニテ考慮決定ノ上通知スルコトトス。

(二) 内水面利用試験調査

一、内水面利用現勢調査ニ關スル事項

一、(3) 受水區域ノ廣表及地貌、地質ノ次ニ「河川ノ源ノ森林ノ状態」ヲ追加ス。

第一回養殖擔當官打合會決議

- 一、(4) 流入、流出、河川ノ狀況ノ次ニ「水量及流量」ヲ追加ス。
- 一、河川利用試験ニ關スル事項
  - 參加者中宮城、廣島ハ參加ヲ保留シ、青森ハ脱退ス。和歌山ハ稚あゆニテ參加ス。
  - 一、湖沼利用試験ニ關スル事項
    - 宮城ハ參加ヲ保留シ、青森ハ參加魚種ニにじますヲ追加シ、京都ハ脱退ス。

(三) 人工餌料試験調査

- 一、鮭鱒人工餌料試験ニ關スル事項
  - 高知縣脱退ス(稚魚飼育)
  - 一、鰻人工餌料試験ニ關スル事項
    - 福岡、愛知、神奈川縣脱退シ茨城縣新ニ參加ス。

希望事項

- 一、養殖擔當官打合會ハ毎年一回中央ニ一屆會期ヲ延長シテ開催セラレタキコト。
- 二、養殖擔當官打合會ヲ海區別、地方別ニ開催スルコトニ就テモ考慮セラレタキコト。
- 三、本打合會ノ會期中見學又ハ講習、講話ノ機會ヲ得ル様取計ヲハレタキコト。
- 四、中央ニ於テ水質ノ試験研究ヲ實施セラレタキコト。

三、水産連絡試験第三回打合會議事要録

(一) 會議要領

- 一、會議主催者 水産局、水産試験場(本會議ハ水産局主催ノ水産主任官事務協議會ニ引續キ開催セラル)
- 二、會期 昭和六年六月八日、九日、二日間(午前九時—午後四時)
- 三、會場 農林省會議室
- 四、日程

月	日	會	議
第一日	六月八日(月曜日)		
第二日	六月九日(火曜日)		

- (一) 連絡試験調査ノ前年度ニ於ケル經過報告並ニ討議
- (二) 連絡試験調査事項ノ修正削除又ハ追加ニ關スル件
- (三) 連絡試験調査ノ遂行方法ニ關スル件
- (四) 鰻、牡蠣ニ關スル連絡試験調査ヲ急速ニ解決セシムル方法ニ關スル件

五、出席者

水産局長	長瀬貞一
水産課長	大濱喜一郎

水産試験場技師

星野三郎

梶山英二

丸川久俊

水産試験場技師

關根秀三郎

木村金太郎

佐藤一

水産試験場技師

藤森三郎

山本祥吉

松井佳一

水産試験場技師

源生一太郎

宇田道隆

木村喜之助

水産試験場技師

川尻稔

關晴雄

岡本五郎三

水産試験場技師

神谷尙志

池田信也

岡本五郎三

同

林野清

岡谷忠治

和田喜藏

同

囑託 水野復一郎

岡谷忠治

和田喜藏

同

助手 日下部臺次郎

岡谷忠治

和田喜藏

地方廳其他(場長トアルハ水産講習所場長)

東京(小笠原)水産課長 加藤勢三

東京 場長

笠村

確

京都	所長	中島庸三	大阪	技師	田中林三
神奈川	場長	仙川滿多雄	兵庫	場長	菅沼九一
神奈川	分場長	本田光吉	長崎	場長	面高慶之助
新潟	場長	桐本富次	埼玉	技師	澁谷雄一郎
群馬	場長	富永次男	千葉	場長	笹子治
千葉	分場長	舟橋清	茨城	場長	田代清友
茨城	技師	大島慎二	栃木	技師	拂川悌之助
三重	場長	河村兵三	愛知	場長	和氣友之助
静岡	場長	後藤節藏	山梨	技師	須賀原善太郎
滋賀	場長	田口長次郎	岐阜	技師	平木治
長野	技師	長田正男	宮城	場長	河合盾丸
福島	場長	飛塚高次	宮城	分場長	竹本正文
岩手	場長	小安正三	青森	場長	奥津興美
山形	場長	天野壯助	山形	技師	小林彦四郎
秋田	場長	佐藤	福井	場長	武季作
石川	場長	吉田潔	石川	増殖場長	渡部龜一

富山	所長	小島省吾	鳥取	場長	小松和勝
島根	場長	矢吹正夫	岡山	場長	丹治經治
廣島	場長	牧野謙二	山口	分場長	渡會絹三郎
山口	場長	高橋照文	和歌山	場長	仙波平馬
山口	商工水産課長	三木進一郎	徳島	場長	細川可也
香川	場長	明山保次郎	愛媛	場長	渡邊安忠
高知	場長	竹田重雄	福岡	場長	岡村治人
大分	場長	秋山永次	佐賀	場長	秋山俊一郎
熊本	場長	飯尾公壽	宮崎	場長	森谷茂
鹿兒島	場長	河野光三	沖繩	場長	立川卓逸
北海道	技師	半田芳男	北海道	場長	森脇幾茂
南洋廳	場長	上野省三	朝鮮	場長	脇谷洋次郎
全羅南道	水産課長	北野退藏	朝鮮	技手	馬庭軍市
關東廳	場長	姉帯定助	樺太廳	技師	石井四郎
臺灣	場長	與儀喜宜	拓務省	技手	北川英夫

(二) 會議

第一日

午前九時半農林省會議室ニ開會、春日水産試験場長議長席ニ着キ開會ノ挨拶アリ、直ニ議事ニ移ル。

議題

- 1 連絡試験調査ノ前年度ニ於ケル經過報告並ニ討議
- 2 連絡試験調査事項ノ修正削除又ハ追加ニ關スル件
- 3 連絡試験調査ノ遂行方法ニ關スル件
- 4 鰻、牡蠣ニ關スル連絡試験調査ヲ急速ニ解決セシムル方法ニ關スル件

總務的事項

議長ハ連絡試験調査ノ遂行ニ當リ現時ノ一般的緊縮政策ニ適應スル必要上、其施行ノ範圍ヲ或限度迄縮少スルハ已ムヲ得ザルコトナルモ實施ニ當リテハ徹底ヲ期スルノ要アルヲ以テ本會議ニ於テモ此ノ意味ニテ審議ヲ進メラレタシト希望シ、連絡試験ノ總務的事項ニ就キ中央トシテ經過報告並ビニ説明アリ。即チ

- 一、既往ニ於ケル水産試験調査成績記録ノ蒐集取譯メニ就テハ連絡府縣ノ協力ニヨリ之ヲ完了シ「水産試験成績總覽」(昭和六年三月發行)ヲ刊行シタリ、厚ク謝意ヲ表ス。

- 一、無線電信電話ヲ設置シテ漁況、海況ノ速報ニ利用スルノ件ニ就テハ中央ニ受信ノ設備ヲナシタリ。

- 一、大海洋觀測施行ノ要望ニ對シテ「日本海」ニ關シ成案ヲ得タルヲ以テ後刻ノ協議ニ讓ル。
  - 一、瀬戸内海水産聯合協議會ヨリ瀬戸内海ニ於ケル海況ト漁況トノ關係ニ就テ取極メ方請願アリタルガ、之ハ前回第二回打合會ニ於テモ一般的海區ニ就キ同様ノ要望アリシコトニテ共ニ目下銳意、研究調査ヲ取極メ中ナリ。
  - 一、海洋調査ニ關スル經費ヲ國庫ニテ負擔スルノ件ニ就テノ要望ハ本年モ豫算トシテ計上シツツアリ。
  - 一、要望アリタル水産製品品評會ニ就テハ昨秋之ヲ開催シ、其結果ハ既ニ之ヲ報告セリ。
  - 一、最後ニ擔當官打合會ニ就テハ昨五年度ハ要望ノ通り漁撈、海洋調査、製造、養殖ノ三部會ヲ開催シタリ。
- 次テ六年度擔當官打合會ノ開催ニ就キ諮リタルガ、長野、京都、岡山、千葉、廣島、臺灣、石川、岩手、福井、北海道、朝鮮、大分ノ各府縣ヨリ夫々意見ノ開陳アリ、大體ニ於テ場長ノ出席ニヨル連絡試験打合會ハ短期間ニテ充分ナルモ、擔當官打合會ハ各部共毎年一回開催ノ必要アリ、殊ニ漁撈、海洋調査ニ就テハ一層其必要アリトノ意見多數ナリシガ議長ハ六年度ニ於テハ或部科一ツニ就キ擔當官打合會ヲ開催スルコトニシ、其ノ部科ノ選定ハ中央ニ一任サレタシト諮リ之ヲ可決ス。

次テ試験項目ヲ追フテ先中央ニ於ケル五年度經過報告ニ入ル。

議題 第一

- 一、漁具改良試験。池田技手ヨリ簡單ナル説明アリ、臺灣、岩手ノ質問ニ對シ應答アリ。
- 二、遠洋漁業基礎調査。池田技手ヨリ説明アリ。
- 三、漁業連絡試験。池田技手 概要説明ノ後さんまニ就テ取極メタル要領ヲ講述ス。福島ハ秋刀魚漁ノ經濟的從業期間ヲ

決定スル要件ノ發見ニ付キ、静岡ハ鯉、鮪ノ南方漁場開發ニ關スル連絡試験ノ施行ニ就キ提案アリ、福島、北海道、鹿兒島、岩手等ノ是等ニ對スル意見ノ開陳アリ。議長ハ南方鯉、鮪漁場ノ開發ハ重大ナル問題ナレバ漁業連絡試験ノ追加項目トシテ審議願ヒタシト述ブ。(以上午前中)

午後一時半再開。議長ハ、静岡提案ノ新漁場開發ニ關シ意見ヲ求メタルガ北海道ハ明日第三議題ノ時審議シタシト述べ之ヲ決定ス。

- 四、海洋調査(一般的調査)。宇田技師ノ報告アリ。
  - 五、漁場細密調査。丸川技師ノ報告アリ。
  - 六、ぶりに關スル海洋調査。丸川技師ノ報告アリ、富山、秋田、朝鮮等ヨリ。意見ノ開陳及質問ニ對シ丸川技師ノ應答アリ。
  - 七、淺海利用試験調査。藤森技師ノ報告アリ、筏ノ沈設ニツキニ、三府縣トノ間ニ質問應答アリ。
- 此ノ間水産局下田技師ハ、明日ノ新漁場開發問題ニツイテ意見アリ、北海道ハ今年北海道沿海ニ集ル各縣ノ漁業指導船ノ懇談會ヲ開催シタキニ就キ其案ニツキ考慮ヲ願ヒ度シト述ブ。
- 八、内水面利用試験調査。
  - 九、人工餌料試験調査。
  - 一〇、水質汚濁ト魚族トノ關係調査等三項ニ就キ藤森技師ノ報告アリ。

- 一一、貝類加工製品試験。
- 一二、いわし加工製造試験。

一三、水産物冷凍冷蔵適温試験。以上三項ニ就キ木村技師ノ報告アリ。岩手 冷凍肉ニ就テ、愛知ハ冷蔵方法ノ研究ニ就テ質問並ビニ意見ヲ述ブル所アリ。

一四、水産物乾燥試験。ニ就テ木村技師ノ報告アリ。(一五、製造連絡基礎調査ハ報告ナシ)

右終ツテ各府縣ノ經過ニ就キテハ提出ノ印刷物ニ加ヘテ説明ヲ要スベキモノハ簡單ニ願ヒタシト述ベタルモ報告者ナク、報告ノ方法ニ就キテ臺灣ヨリ意見アリタルノミニテ、議題ノ第一ヲ終リ引續キ第二ノ修正、削除、追補ノ件ニ移ル。

議題 第二

試験調査項目ヲ追フテ順次ニ審議ヲ進ム。一、漁具改良試験。二、遠洋漁業基礎調査等ニ修正ナク、岩手ハ漁業表ノ横書ヲ提言ス。三、漁業連絡試験ハ高知かつをニ就テ脱退セルノミ。四、海洋調査。五、漁場細密調査等修正ナシ。六、ふりニ關スル海洋調査ハ秋田、石川、兵庫脱退シ、福岡新ニ参加ス。

七、淺海利用試験調査。ハ脱退及参加ノ打合ヲ終リテ藤森技師ハかき、あさくさのりノ修正追補案ヲ説明シ、異議ナク可決ス。愛知ノあさくさのりノ水質、肥料及品質ニ關シ試験事項ノ追加ヲ提案シ可決ス。山口ハ垂下式かきノ斃死原因ニ關シ連絡試験ノ施行ヲ提案シタルガ明日ノ議題ニ讓ル。

八、内水面利用試験調査ハ稚鮎ノ生態研究追補ニ就キ藤森技師説明ヲナシ、原案ヲ可決シタル後、参加者ヲ決定ス。  
九、人工餌料試験調査。

一〇、水質汚濁ト水族トノ關係調査等ニ就キテハ修正ナシ。

一一、貝類加工製品試験。一二、いわし加工製造試験。一五、製造連絡基礎試験等ニ就テモ修正ナク、議詰ノ熱傳導ニ就キ山口ノ脱退アリタルノミ。一三、水産物冷凍冷蔵適温試験中ニまぐろノ追加ヲ可決シ其参加者ヲ決定ス。一四、水産物乾燥試験調査ニ就テハ修正ナシ、以上ヲ以テ議題第二ヲ終リ散會ス。

第二日

午前九時半開會、直チニ議事ニ入り、逐次試験項目ヲ追フテ進行ス。

議題 第三

漁撈ニ關スル、一、二、三ノ試験項目ニ就テ意見ナシ。四、海洋調査ニ就テ、熊本、千葉、臺灣、香川、茨城、高知、北海道、朝鮮、秋田、和歌山等ヨリ海洋觀測ノ徹底的實施ニ就キ、漁況ト海況トノ關係ニ就キ、種々ノ意見アリ、臺灣、北海道、秋田等ハ横斷觀測ノ實施ニ就キテハ水産以外ノ關係機關トモ密接ナル連絡ヲ執リテ實施セラレンコトヲ切望スル所アリ、議長及丸川、宇田兩技師ヨリ交々應答アリ。

五、漁場細密調査ニ就テハ意見ナク。六、ふりニ關スル海洋調査ニ就テハ鹿兒島ハふりノ全國的漁況通信網ノ實施方法ニ就キ意見ヲ述ベタルガ關係府縣ノ具體的協議ニ待ツコトトナル。

七、淺海利用試験調査。藤森技師ヨリ遂行方法ニ就キ原案ノ説明アリ。山口ハかき斃死原因ニ就キ廣島ハ發生生育條件ニ就キ意見アリ。かきノ斃死原因ニ就キテハ之ヲ連絡試験項目トシテ追補スルコトヲ可決シ、其具體案ニ就キテハ各府縣ヨリ文書ヲ以テ提出ヲ求メ、之ニ依リ中央ニ於テ成案ヲ作り施行スルコトトナル。遂行方法ノ原案ニ就テモ異議ナク可



決ス。

八、内水面利用試験調査ノ遂行方法ニ就キ藤森技師ヨリ提案ノ説明アリ、異議ナク可決ス。

九、人工餌料試験調査ニ就キテハ提案ナク、遊賀ヨリ完全餌料ノ研究ニ就キ意見ノ開陳アリ。(以上午前中)

一〇、水質汚濁ト水族トノ關係ニ就テハ意見ナク。一一、一二、一五、等ノ製造關係事項ニ意見ナシ。一三、水産物冷凍冷蔵適温試験ニ就テハ富山、佐賀等ヨリ質問アリ木村、源生兩技師ノ應答アリ。

一四、水産物乾燥試験ニ意見ナシ。次デニ、三追加的ノ質問及申出アリテ本議題ヲ終リ最後ノ議事ニ入ル。

議題 第四 其他

議長ハ議題ニ就キ説明アリ、山口分場、香川、高知、東京、北海道、臺灣等ヨリ意見ノ開陳アリ、議長及藤森技師ノ應答アリタルガ議決セズ、議長ハ委員會ヲ設クル件ニ就キ諮リ次ノ委員ヲ指名ス。東京、三重、福島、廣島、臺灣、山口ノ外藤森、木村兩技師、而シテ本會議ハ中央提出問題ナル日本海洋觀測一齊調査ニ就テ協議ス。議長ノ説明ニ次デ、山口、北海道、福井等ヨリ意見アリ。明年實施トシ實行ニ就キテハ本提案ニ基キ考慮シタル上適當ノ機會ニ打合會ヲ開クカ又ハ文書打合ヲ行フコトト決定ス。

次デ第十四回瀬戸内海水産協議會ヨリ申請アリタル内海連絡調査ノ件ニ就キ諮リタルニ、關東州、山口分場ヨリ意見アリ結局直接關係アル府縣ノミニ協議ニ待ツコトト決定ス。

最後ニ、別室ニ於ケル委員會ノ結果ニ就キ委員長ノ臺灣總督府與儀技師ヨリ別項決議ノ通り報告アリ。以上ヲ以テ本會議ヲ終リ議長ハ參加府縣ノ勞ヲ謝シ閉會ノ挨拶ヲ述べ散會。(午後三時十五分)

(三) 水産連絡試験第三回打合會決議 (昭和六年六月)

連絡試験調査事項ノ修正削除又ハ追加ニ關スル件(議題第二)

(一) 連絡試験項目並ニ其分擔ニ就テ修正追補

淺海利用試験

一、かき

3 養殖試験ノ項ヲ左ノ通り修正追補スルコト。

(1) 採苗試験

(イ) 池中採苗及養成試験

(ハ) 種苗ノ處理並運搬ニ關スル試験

(2) 垂下養殖試験

(イ) 垂下装置並ニ養成ニ關スル試験

(3) 牡蠣斃死原因並ニ豫防ニ關スル試験

以上ノ試験ハ任意考案ノ上施行スルコト。

連絡參加地方分擔中 (三) 養殖試験ノ項ヲ左ノ通り修正追補スルコト。

(1) 採苗試験

水産連絡試験第三回打合會議事要録

- (イ) 池中採苗及養成試験 水産試験場
  - (ロ) 附着器ニ關スル試験 宮城、東京、愛知、廣島、福岡、佐賀、熊本、咸鏡南道及水産試験場。
  - (ハ) 種苗ノ處理及運搬ニ關スル試験 宮城、廣島、愛知及水産試験場
  - (ニ) 種苗移植試験
  - (イ) 北海道、宮城、東京、静岡、愛知 廣島、福岡、熊本、咸鏡南道、全羅南道、臺灣總督府及水産試験場
  - (2) 垂下養殖試験
  - (イ) 垂下装置並ニ養成ニ關スル試験
  - 岩手、宮城、東京、千葉、神奈川、静岡、三重、和歌山、山口(分場)、島根、兵庫、岡山、廣島、愛媛、香川、大分、熊本及水産試験場
  - (ロ) 一定面積ニ生産スベキ牡蠣數量ノ研究 水産試験場
  - (3) 牡蠣斃死原因並ニ豫防ニ關スル試験調査
  - 岩手、宮城、東京、神奈川、静岡、愛知、三重、和歌山、兵庫、岡山、廣島、山口(分場)、愛媛、徳島、高知、福岡、佐賀、熊本及水産試験場。
- 三、あさくさのり
- 2 發生及生育條件調査ノ項ニ左ノ通り追補スルコト。
- (ハ) 項ニ次ノ一項ヲ加フ。

- (ニ) 海苔ノ品質ノ化學的調査ヲナスコト。
  - (ホ) 項ニ次ノ一項ヲ加フ。
  - (ト) 水質ノ變化並ニ肥料分ノ増減關係ヲ調査スルコト。
  - (從ツテ從來ノ(ニ)ヲ(ホ)トシ、(ホ)ヲ(ハ)トシ、(ハ)ヲ(チ)トナス)
- 8 養殖試験ノ項ヲ左ノ通り修正追補スルコト。
- (1) 簀ニ關スル試験
  - (2) 簀ノ建設方法ニ關スル試験
  - (3) 移植ノ時期及方法ニ關スル試験
  - (4) 海苔沖取養殖試験
- 以上ノ試験ハ任意考案ノ上施行スルコト。
- 連絡參加地方及分擔中 (三) 養殖試験ノ項ヲ左ノ通り修正追補スルコト。
- (1) 簀ニ關スル試験 東京、千葉、愛知及水産試験場
  - (2) 簀ノ建設方法ニ關スル試験 三重、東京、廣島、福岡、全羅南道及水産試験場
  - (3) 移植ノ時期及方法ニ關スル試験 水産試験場
  - (4) 海苔沖取養殖試験 東京、神奈川及水産試験場

内水面利用試験調査

一、河川利用試験項目中左ノ通り追補ス。

(9)項ノ次ニ新ニ左ノ項目ヲ加フ。

(10)稚鮎ノ生態研究

一、連絡参加者中河川利用試験ノ部ヘ左ノ通り追補ス。

稚鮎ノ生態研究

滋賀、愛知、静岡、三重、京都、兵庫及水産試験場。

水産物冷凍冷蔵適温試験

一、試験事項中(1)ニ鮪ヲ追加シ其連絡参加者ヲ次ノ通り定ム。

宮城、静岡、千葉、福井、大分、沖繩、山口(本場)及水産試験場。

(II) 連絡参加者ノ追加又ハ脱退

漁業連絡試験

一、鰹漁業ニ就テ、高知縣脱退

鮪ニ關スル海洋調査

一、福岡縣参加、秋田、石川及兵庫縣脱退

淺海利用試験調査

一、まがきノ發生生育條件調査及養殖試験ニ就テ大分縣参加

一、あさりノ發生生育條件調査ニ就テ、山口及新潟縣脱退

一、あさくさのりノ發生生育條件調査及養殖試験ニ就テ、山口縣(分場)参加、福岡縣脱退

一、あはびノ發生生育條件調査ニ就テ、静岡縣脱退

内水面利用試験調査

一、河川利用試験ノ稚あゆ移殖試験ニ就テ、山口縣(分場)参加

一、河川利用試験及湖沼利用試験ニ就テ、宮城縣脱退

人工餌料試験調査

一、鰻人工餌料試験ニ就テ、愛知縣脱退

いわし加工製造試験

一、トマト、ソース漬罐詰試験ニ就テ 兵庫縣脱退

水産物冷凍冷蔵適温試験

一、鮪及鮭ニ就テ、石川縣脱退。鮭ニ就テ、大分縣脱退。牡蠣ニ就テ、東京、神奈川、佐賀参加ス。

水産物乾燥試験調査

一、鰻ニ就テ、兵庫縣脱退

連絡試験調査ノ遂行ニ關スル件(議題第三)

淺海利用試験

一、現況調査

水産連絡試験第三回打合せ議事要録

左記期限迄ニ調査ノ結果ヲ水産試験場ニ報告スルコト。

か き 昭和六年 八月末日

あさくさのり 昭和六年 十月末日

あ さ り 昭和六年 十二月末日

あ は び 昭和七年 三月末日

二、發生生育條件調査及養殖試験

(A) 試験施行ノ順序

連絡参加機關中二種類以上ニ關係ヲ有スルモノハ、かき、あさくさのり、あはびノ順序ニヨリ施行スルコト、但シ同時ニ一種以上ニツキ試験ヲ行ヒ得ルモノニアリテハ此限りニ非ザルコト。

(B) 發生及生育條件調査

先ヅ次ノ事項ヨリ調査ニ着手シ其他ハ本項終了後行フコトトシ其ノ順序等ニ就テハ追テ協定スルコト。

(1) か き

イ、發生條件中、産卵期、種貝附着時期及生長度、干出時間及水深ト種貝附着數量及生長度トノ關係、海水比重及水濕、

ロ、生育條件中、干出時間及水深ト生長度トノ關係、海水比重及水濕、雌雄ノ比率

(2) あ さ り

イ、發生條件中、産卵期、刺貝發生場圖ノ作製、發生時期、海水比重及水濕

ロ、生育條件中、干出時間及水濕ト生長度トノ關係、海水比重及水濕、雌雄ノ比率

(3) あさくさのり

イ、發生條件中、秋海苔ノ發生時期及生長度、干出時間ト秋海苔ノ發生トノ關係  
海水比重及水濕、氣濕ト秋海苔ノ發生トノ關係

ロ、生育條件中、干出時間及水深ト秋海苔ノ生長度トノ關係、海水比重、水濕及氣濕ト秋海苔ノ成長度トノ關係

(4) あ は び

イ、發生條件中、産卵期、種苗發生分布狀況、種苗存在時期、海水比重及水濕ト種苗ノ發生及生育トノ關係、底棲生物ト種苗發生トノ關係

ロ、生育條件中、生長度、底棲生物トあはび棲息密度及生育トノ關係、雌雄ノ比率

(C) 養殖試験

處定ノ分擔ニヨリ能フ限リ實施スルコト。

内水面利用試験調査

(1) 現勢調査

昭和六年十二月二十日迄ニ水産試験場ニ報告スルコト

(2) 河川利用試験及湖沼利用試験

水産連絡試験第三回打合せ議事要録

(A) 先ヅ河川利用試験中(2)稚あゆ移殖試験(4)あゆ週上棲息區域ノ限界試験(10)稚鮎ノ生態研究、及湖沼利用試験中(1)項ノあゆニ關スル試験ヨリ着手スルコトトシ其ノ分擔ヲ次ノ如クスルコト。

イ、漁獲法及蓄養法  
德島、兵庫、京都、富山、静岡及水産試験場

ロ、運搬法、移殖又ハ放流魚ノ移動範圍、河水ノ變化ニ對スル抵抗力、放養時期、放養尾數ト成長度、歩留率、産卵期及産卵狀況

岡山、神奈川、大分、佐賀、福井、石川、三重、福島、愛知、群馬、栃木、山口、岐阜、山形、東京、長野、鳥取、山梨、埼玉、宮崎、福岡、新潟、廣島、和歌山、宮城、岩手、熊本、鹿児島、臺灣總督府及水産試験場

ハ、稚鮎ノ生態研究  
滋賀、愛知、静岡、三重、京都、兵庫及水産試験場

(B) 其ノ他ノ河川利用試験及湖沼利用試験項目ハ前記試験終了後着手スルコトトシ其具體案ハ追テ協定スルコト。但シ前項以外ノ魚種及事項ニツキ調査試験ヲ行ヒ得ルモノニアリテハ此限リニ非ルコト。

(3) 種 苗 調 査

昭和六年十二月二十日迄ニ水産試験場ニ報告スルコト。

人工餌料試験調査

(1) 現 狀 調 査

昭和六年十二月二十日迄ニ水産試験場ニ報告スルコト、

(2) 鮭鱒類人工餌料試験

(イ) 鱒親魚養成用人工餌料試験

先ヅ從來ノ餌料ヲ使用シテ既定ノ方法ニヨリ試験シ其ノ成績ヲ各年毎ニ水産試験場ニ報告シ水産試験場ハ之ニ基キ新ニ試験スベキ餌料ヲ決定通知スルコト。

(ロ) 鮭鱒稚魚飼育用人工餌料試験

昭和五年度飼育ノ結果ニ基キ水産試験場ニ於テ更ニ試験方法ヲ考案セントスルヲ以テ飼育記録ヲ昭和六年六月末迄ニ水産試験場ニ報告スルコト。

(3) 鱒人工餌料試験

先回ト同様ノ方法ニヨリテ鱒類以外ノ最モ得易キ餌料ニツキ試験スルコト。

貝類加工製品試験

先かきニ就テ行ヒ其試験項目ハ水煮罐詰及冷蔵及冷凍ニ關スル諸項目トスルコト。

いわし加工製造試験

水煮罐詰及「トマト」罐詰ノ二種ニ就テ之ニ關スル各項目ヲ試験スルコト。

水産物冷凍冷蔵適温試験

牡蠣、鱈及まぐろニ就キテ先試験ヲ行ヒ其他ヲ次ギトスルコト。

鱈、牡蠣ニ關スル連絡試験調査ヲ急速ニ解決セシムル方法ニ關スル件（議題第四）

鱈及牡蠣ハ各民族ニ共通セル民衆的食品殊ニ榮養給源トシテ價値大ナルモノナルガ故ニ之ガ大量の生産ヲ計リ廣ク國際的ニ其販路ヲ開拓スルハ本邦水産業ノ振興上極メテ緊切ナル事業ナリ。  
依テ水産試験場ハ本連絡試験項目中最緊要ナル事項ヲ速ニ撰定シテ之ヲ連絡參加者ニ通知シ各參加者ハ極力其遂行ニ努ムルコト。

水産試験場協議提出事項

日本海々洋一齊調査ニ關スル件

日本海ノ海洋觀測ニ就テハ豫テ關係府縣ノ要望セル所ニシテ提案ニヨル昭和七年度ノ實施ニ就テハ異議ナキモ其時期並ビニ方法ニ就テハ中央ニ於テ考慮ノ上適當ノ方法ニヨリ協議又ハ打合ノ上決定スル様取計ヲハレタキコト。（提案省略）

昭和六年度擔當官打合會開催ニ關スル件

昭和六年度ニアリテハ、漁撈海洋、養殖、製造ノ三打合會中何レカ一回之ヲ開催スルコトトシ其撰擇及期日ニ就テハ中央ニ一任スルコト。

四、連絡試験調査ニ關スル各種通知事項

一、「人工餌料試験調査」ニ關スル事項（第一回養殖擔當官打合會（六年一月）ニ於テ通告済）

第一回水産連絡試験ノ決議ニ基キ水産試験場ニ於テ決定シタル通知事項次ノ如シ。

一）鱈親魚養成用人工餌料試験

- (1) 試験魚種へじます（滿一年魚ニシテ中庸ノモノヲ以テス）
- (2) 餌料材料ノ選定及之ガ混成方法  
右ニ付キテハ中央ニテ便宜ヲ計ルコトトス

(3) 試験方法

- (イ) 飼育 池（池及其周圍ノ狀況記載ノコト）  
池ノ大小 同一條件ノモノ  
用水量 適宜決定ノコト
- (ロ) 尾 數 一群一〇尾以上 坪當リ約一〇尾
- (ハ) 餌料 二種比較 内一種ハ從來使用シ來レルモノ、他ハ指定ニヨルモノ

連絡試験ニ關スル各種通知事項

(二) 記載事項

水溫 毎日午前十時ニ最高最低溫度ヲ記載ス。  
氣溫 同時ニ標準寒暖計ノ示度ト對照スルコト。  
天候

用水清濁ノ模様

餌料ノ使用量 (毎日記載。)

尾數、體量ノ測定。

斃死魚 (稚魚試験ニ同ジ) 開始當時ノ使用尾數及總體量ヲ測定シ爾後春夏秋冬ノ四季ニ總尾數及總體量ノ

外、體形ニヨリ大中小ノ三種ニ分チ測定ス。

其他參考事項

(4) 報告形式 追テ定ム

(三) 鰻人工餌料試験

一、分析資料送附ノ注意事項

- 1 資料所要量ハ約五百瓦
- 2 必ず純「アルコール」漬トス(生ノ儘ノ送附ハ不可)

- 3 瓶ハ共栓瓶トシ栓ハ絲類ニテ堅ク結び、「バラフィン」ニテ封蠟スル事。
- 4 瓶ニハ綿等ヲ詰メザルコト。

二、淺海利用試験調査ニ關スル事項 其ノ一 (昭和六年五月十四日付 關係連絡府縣へ通告済)

昭和六年一月第一回養殖擔當官打合會ノ協議ニ從ヒ、水産試験場ニテ決定シタル各調査票ノ記入事項次ノ如シ。

一、かき發生生育條件調査票ノ記入事項

- (一) 産卵期ノ調査員 ナルベク地ツ子ノかきニツキ調査スルコト。  
移殖牡蠣ニツキ調査スル場合ハ同一場所ニ、二冬以上棲息セルモノトシ、兩者何レニヨルカヲ明記スルコト。
- (二) 調査票中殻長トアルハ凡テ殻高ト改ム。  
殻高ノ測定方法 右殻ニ據リ殻頂ヲ基點トシテ殻ノ最長徑ヲ測定スルコト。
- (三) 生殖腺發達狀況 雌ニ就テ調査シ卵ノ發育程度ヲ記載スルコト。  
雄ノ生殖腺發達狀況モ參考ノタメ調査スルコト。
- (四) 全數ニ對スル雌雄ノ割合 百分率ヲ以テ記載スルコト。
- (五) かき種苗ノ定義 本調査ニ於テかき種苗ト稱スルハ殻高三耗以下ノ大サノモノヲ云フ。
- (六) 地盤ノ高サノ測定方法 地盤ノ高サハ調査地ニ於ケル年間ノ最大干潮面ヲ基準トシ測定スルコト。

連絡試験調査ニ關スル各種通知事項

最大干潮面ノ決定ハ次ノ方法ニ據ルコト。

(イ) 任意ノ日ノ滿潮面又ハ干潮面ヲ精確ニ觀測シ、該點ヨリ其地ノ潮高ノ基準面ヲ海軍水路部發行潮汐表ニ  
ヨリ算定スルコト。

(ロ) 前記觀測値ヨリ潮汐表ヲ用ヒテ最大干潮面ヲ算定スルコト。

(ハ) 右ノ決定ハ數回ノ實測ノ平均ニヨルコト。

尙右ノタメ試驗地點ニハ潮高標ヲ建設シ置クヲ便トス。

(七) 潮汐干滿差 各表中ニ於ケル潮汐干滿差ノ項ハ凡テ左ノ通り改ム。  
ナルベク各月最大潮時及最小潮時ニ實測セル結果ヲ記スコト。

潮 汐 干 滿 差							
大 潮				小 潮			
滿位		干位		滿位		干位	
潮		潮		潮		潮	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後

(八) 穀高又ハ數量ノ平均 全數ノ平均トスルコト。

(九) 一日ノ干出時間ノ最長 次ノ方法ニヨルコト。

(イ) 調査點ハ年間ノ最大干潮面ヨリ幾何ノ高サニアルカヲ測定スルコト。  
最大干潮面ノ決定ハ(六)ニ據ルコト。

(ロ) 潮汐表ニヨリ右調査點ノ一日ノ干出時間ノ最長ヲ算出スルコト。

(ハ) 一方右調査點ノ干出時間ヲ大潮時ニ數回實測シ其平均ヲ求ムルコト。

(ニ) 記入票ニハ前記兩調査ノ結果ヲ區別シテ記スルコト。

(一〇) 鹹度高キ地、低キ地、好適地 其地方ノ實況ニヨリ適當ニ定ムルコト。

(一一) 水深ノ測定方法

(イ) 海洋觀測時以外ニ於ケル水深 其地ノ年間ニ於ケル最大滿潮面ヲ基準トシ測定スルコト。  
最大滿潮面ノ算出ハ次ニヨルコト。

(1) 任意ノ日ノ滿潮面ヲ實測シ該點ヨリ其地ノ潮高ノ基準面ヲ海軍水路部發行潮汐表ニ據リ算定スルコト。

(2) 前記ノ觀測値ヨリ潮汐表ヲ用ヒ最大滿潮面ヲ算定スルコト。

(3) 右ノ決定ハ數回ノ實測ノ平均ニ依ルコト。

(ロ) 海洋觀測時ニ於ケル水深 海面ヨリノ水深トス。

(一二) まがき仔蟲ノ査定方法 堀、日下部、「まがき仔蟲ノ人工飼育ト天然ニ於ケル仔蟲ノ害敵ニ就テ」、水産講習所  
連絡試驗調査ニ關スル各種通知事項



試験報告第二十三卷第三冊(大正十五年十二月發行)参照ノコト。

(一三) いたばがき仔蟲ノ査定方法 關、「いたばがきノ査定ニ就テ」水産試験場報告第一號(昭和五年十一月發行)参照ノコト。

(一四) かき容量ノ測定方法 測定スベキ牡蠣ノ約二、三倍容積ノ器ニ淡水ヲ滿シ、之ニ牡蠣ヲ投入シ、容器ヨリ牡蠣ノ入りタルタメニ溢レ出デタル水ノ量ヲ精密ニ測リ、蚝ニテ表ハスコト。

(一五) 剥身煮熟重量測定方法 牡蠣剥身ヲ煮熟シタル後乾キタル木綿ニテ輕ク壓シ牡蠣ノ表面ニ附着セル水分ヲ吸收シテ後秤量スルコト。

(一六) かき剥身乾燥重量測定方法 かき剥身ヲ煮熟シタル後天日ニテ乾燥シ「デシケーター」中ニテ尙良ク乾燥シ、完全ニ乾燥シタル後秤量スルコト。

尙採集個數ガ當初ノ放養個數ヨリ減少シ百個ニ達セザル場合ハ一個當リ平均ノ値ヲ出シ之ヲ百倍シテ百個ノ重量トシテ記載シ其ノ旨ヲ附記スルコト。

(一七) 成長率増重率計算方法 成長率ハ容量ニ依リ増重率ハ重量ニ依リ採集時ト放養時トノ比ヲ記載スルコト

二、あさり發生生育條件調査票ノ記入事項

(一) 産卵期調査員 かき(一)ニ同ジ。

(二) 殼長ノ測定方法 貝殼ノ前端部ヨリ後端部マデノ最大距離ヲ測定スルコト。

(三) 生殖腺發達狀況 かき(三)ニ同ジ。

(四) 全數ニ對スル雌雄ノ割合 かき(四)ニ同ジ。

(五) 地盤ノ高サノ測定方法 かき(六)ニ同ジ。

(六) 潮汐干満差 かき(七)ニ同ジ。

(七) 殼高又ハ數量ノ平均 かき(八)ニ同ジ。

(八) 一日ノ干出時間ノ最長 かき(九)ニ同ジ。

(九) 鹹度高キ地、低キ地、好適地 かき(一〇)ニ同ジ。

(一〇) 水深ノ測定方法 かき(一一)ニ同ジ。

(一一) 容量測定方法 かき(一二)ニ同ジ。

(一二) 剥身煮熟重量 かき(一五)ニ同ジ。

(一三) 剥身乾燥重量 かき(一六)ニ同ジ。

(一四) 成長率、増量率 かき(一七)ニ同ジ。

三、あはび發生生育條件調査票ノ記入事項

(一) 産卵期調査員 かき(一)ニ同ジ。

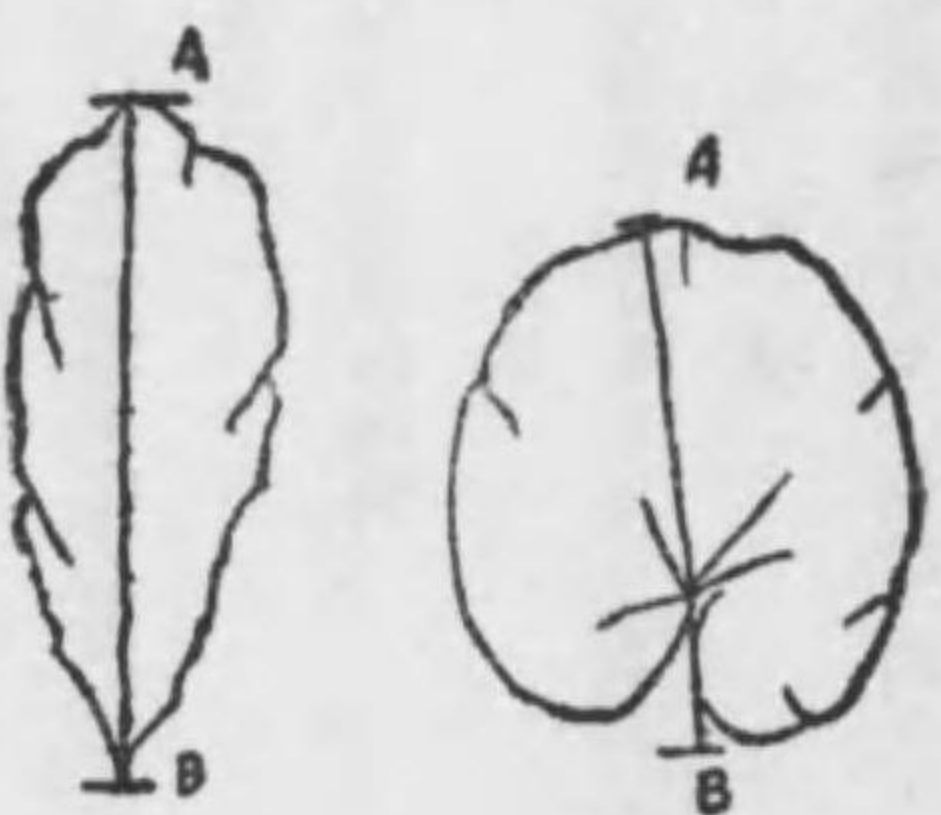
(二) 殼長ノ測定方法 螺頂ヨリ螺孔外縁マデノ距離(長徑)ヲ測ルコト。

連絡試験調査ニ關スル各種通知事項

- (三) 生殖腺發達狀況 かき(三)ニ同ジ。
- (四) 全數ニ對ス。雌雄ノ割合 かき(四)ニ同ジ。
- (五) 殻長又ハ數量ノ平均 かき(八)ニ同ジ。
- (六) 水深ノ測定方定 かき(一一)ニ同ジ。
- (七) 底棲生物ノ種類及ビ量ノ測定方法  
種類及數量ヲ潜水機其他適宜ノ方法ニヨリ調査スルコト。  
調査ノ方法及調査セル面積ハ備考欄ニ附記スルコト。
- (八) あはびノ年齢 明瞭ナラザル場合ハ推定ニ依リ、其旨ヲ附記スルコト。
- (九) 稚貝 本票ニ於テ稚貝ト稱スルハ殻長三糎迄ノモノヲ云フ。

四、あさくさのり發生生育條件調査票ノ記入事項

- (一) 秋海苔——本票ニ於テ秋海苔トハ秋ヨリ春先マデ發生シ普通乾海苔トシテ抄製サルルモノヲ云フ。即チ秋芽、冬至芽、寒芽、馬鹿芽等ヲ云フ。
- (二) 夏海苔——春先ヨリ夏ニカケテ發芽スル小形ノ海苔ヲ云フ。
- (三) 海苔ノ大サ測定方法——措置トシタル上、根ノ部ヲ貫ク最長徑ヲ測定スルコト。



上圖 A—B ヲ海苔ノ大サトス。

- (四) 地盤ノ高サノ測定方法——かき(六)ニ同ジ。
- (五) 潮汐干満差——かき(七)ニ同ジ。
- (六) 大サ又ハ數量ノ平均——かき(八)ニ同ジ。
- (七) 一日ノ干出時間ノ最長——かき(九)ニ同ジ。
- (八) 鹹度高キ地、低キ地、好適地——かき(一〇)ニ同ジ。
- (九) 水深ノ測定方法——かき(一一)ニ同ジ。

(二) 淺海利用試験調査ニ關スル事項其ノ二 (昭和六年七月十日付關  
係連絡府縣へ通告濟)

第三回水産連絡試験打合せ(昭和六年六月)ノ決議ニ基キ水産試験場ニテ決定シタル通知事項次ノ如シ。

(一) かけ斃死原因並ニ豫防ニ關スル試験調査方法

一、趣 旨

垂下式養殖ニ於ケルかけ斃死原因ヲ調査シ其豫防法ヲ發見セントス、而テ差當リ昭和六年度ニ於テハ其調査ヲ假想被害原因中重要關係ヲ有スト認メラルルニ、三ノ事項ニ限ルコトトシ、之ヲ全國ニ亘リ成ル可ク精細ニ調査シ以テ綜合研究ヲ行ヒ更ニ第二次ノ調査ニ移ラントス。

二、調査事項及方法

(一) かけ垂下養殖現況調査

(1) 目 的

被害調査ノ前提トシテ昭和六年度ニ於ケルかけ垂下養殖ノ現況ヲ明カニセントス。

(2) 調 査 事 項

- (イ) 養殖場ニ就キ 位置(圖面添付)地勢、水深、潮汐干満ノ差、淡水注入狀況。
- (ロ) 筏ニ就キ、筏ノ大サ、及ビ個數並ニ配置ノ狀況、連ノ長サ及ビ個數並ニ間隔、管ノ長サ、種苗ノ產地及ビ

年齢並ニ大サ、移殖時期。

(二) 生殖腺ノ調査

(1) 目 的

斃死ト産卵トハ密接ノ關係ヲ有スルガ如キヲ以テ之ガ相互關係ヲ明カナラシメントス。

(2) 方 法

- (イ) 七月初旬ヨリ九月末日迄五日目毎ニ成ルベク多數ノ牡蠣ニツキ、生殖腺ノ熟否、放卵ノ狀況ヲ調査スルコト。
- (ロ) 右ノ如ク繼續的調査不可能ノ場合ハ被害ノ起レル時、多數ノかけニツキ産卵狀況ヲ調査シ被害トノ關係ヲ究ムルコト。

(三) 海洋觀測

(1) 目 的

斃死ト海況トハ密接ナル關係ヲ有スルガ故ニ之ガ相互關係ヲ明カナラシメントス。而シテ本年ハ就中最モ重要關係ヲ有スト思料セラルル海水比重及水溫トノ關係ニツキ主トシテ研究セントス。

(2) 方 法

- (イ) 潮 間 觀 測
- (A) 方 法

連絡試験調査ニ關スル各種通知事項

かき發生條件調査記入票記載ノ方法ニヨルコト。

- (B) 時期  
七月初旬ヨリ十月下旬マデ毎月大小潮時四回干潮ヨリ満潮マデ一時間毎ニ、表層、中層、底面ノ觀測ヲナスコト。

(C) 觀測事項

海水比重、水溫(出來得レバ鹽分、浮游生物、酸素含有量、水素、イオン濃度、潮流、氣象ヲ調査スルコト)

(D) 定地觀測

(A) 方法及時期  
養蠔場ニ於ケル一定地點ニテ七月初旬ヨリ十月下旬マデ毎日又ハ五日目毎ニ觀測スルコト。

(B) 觀測事項

海水比重、水溫(出來得レバ酸素含有量、水素、イオン濃度、浮ノ種類及數量、鹽分、潮流、氣象(附近候所ノ觀測ニ依ル)ヲ調査スルコト)

(C) 觀測時

満潮時トシ表面ノミナラズ、成可ク中層、底面ヲモ觀測スルコト。

備考

前記海洋觀測ハ、(イ)(ロ)兩觀測双方又ハ何レカ一方ヲ各養殖場中鹹度高キ所及ビ低キ所ニ於テ行ヒ

被害トノ關係ヲ調査スルヲ理想トス、但シ右ノ通り施行困難ノ場合ハ前記趣旨ノ下ニ能フ程度ニ於テ施行スルコト。

(ハ) 被害起レル時ハ筏ノ内外ニテ酸素、水素、イオン濃度、硫化水素、其他斃死ニ伴ヒ生成スル毒素ノ關係ヲ調査スルコト。

(四) 牡蠣斃死狀況調査

(1) 目的

被害發生ノ當初ヨリ終熄ニ至ル經過ヲ精細ニ觀察スルハ原因探究上最重要ナルヲ以テ左ノ事項ニツキ能フ限リ綿密ニ調査ヲ行フコト。

(2) 調査事項

(イ) 垂下牡蠣ニ就キ。

(A) 最初ニ斃死ヲ起シタル時期

(B) 斃死シ始メタル場所——被害ハ多數筏中、何レノ部分ヨリ始マレルカ、又ハ一様ニ起レルカ、一ツノ筏ノ中ニテハ何レノ部分ヨリ起レルカ、垂下連ノ中ニテハ上層ヨリ下層ニ至ル間ニ於テ何レヨリ起レルカ等ニツキ調査スルコト。

右ハ生貝ト斃死貝トノ割合ノ調査ニヨリ定ムルコト。

(C) 被害ノ進行傳播ノ狀況

連絡試験調査ニ關スル各種通知事項

大體前項ノ方法ニヨリ被害ノ進行狀況ヲ調査スルコト。

(D) かきノ種類年齢及大サ

斃死ハかきノ種類(まがきトいたばがきノ被害ニ對スル相違ノ如シ)年齢及大サニヨリ差異アリヤ否ヤヲ調査スルコト。

(E) 寄生及ビ附着生物ノ種類及數量並ニ被害トノ關係

(F) 被害終熄ノ時期及ビ斃死率

(G) 移殖種かきノ産地ト被害トノ關係

(H) かき以外ノ貝類ノ被害狀況

(I) 其他參考事項

(ロ) 附近地時かきニ於ケル被害ノ有無及狀況

(ハ) 附近天然産かきニ於ケル被害ノ有無及狀況

備考

以上ノ調査ハ垂下養殖ノ行ハレ居ル各海區毎ニ行フコト。各海區ニ亙リ、試験場員ノミニテ調査不可能ノ場合ハ適當ナル囑託員常置等ノ方法ニヨリ能フ丈精細ニ斃死ノ有無及其狀況ヲ觀察スルコト。

(五) 被害狀況ノ速報

(1) 目的

被害發生狀況ノ互報ニ依リ他ノ場所ニ於ケル被害調査上ノ參考ニ資セントス。

(2) 方法

(イ) 左ノ事項ニツキ各連絡府縣ハ中央水産試験場ヘ報告スルコト。

(A) 初メテ牡蠣ノ斃死ヲ發見シタルトキハ其概況(速報スルコト)

(B) 七月以後十月下旬迄毎月一日及十五日ニ被害ノ有無、及其概況

(ロ) 中央水産試験場ハ前記ノ報告ヲ受ケタル時ハ速ニ之ヲ連絡府縣ヘ通知スルコト。

(六) 海水比重及干出ト被害率トノ關係調査

(1) 目的

かきノ斃死ト環境トノ關係特ニ鹹度及干出關係ト斃死トノ關係ヲ知ラントス(海洋觀測ト關聯)

(2) 方法

(イ) 一定場所ニテ採苗シタル、かき種貝ヲ海水比重大ナル所(約二五、〇〇)中等度ノ所(二三、〇〇)小ナル所

(一八、〇〇以下)等各所ニテ垂下養殖ヲ行ヒ其斃死狀況ヲ比較研究スルコト、此場合ナルベク筏ノ大サ、長サ三間、幅二間、連ノ間隔一尺二寸、管ノ間隔五寸トナスコト。

(ロ) 海水比重二五、〇〇以上ヲ有スル場所ニテ、常時海水中ニ垂下スルモノ及同場所ニテ干潮時適當ニ露出スル装置ニシタルモノトノ、かきニツキ斃死狀況ヲ調査スルコト。

備考

連絡試験調査ニ關スル各種通知事項

三、取 纏 右ハ本年度間ニ合ハザルトキハ見合セ明年施行ノコト。

四、連絡參加試験機關 連絡地方ハ調査ノ結果ヲ中央水産試験場ニ報告シ、水産試験場ハ之ヲ取纏メ連絡各地方ヘ報告スルコト。

岩手、宮城、東京、神奈川、静岡、愛知、三重、和歌山、兵庫、岡山、廣島、山口、島根、愛媛、徳島、高知、大分、關東廳、熊本、山形、京都、香川及水産試験場。

二、かき斃死原因並ニ豫防ニ關スル試験調査ニ就キ水産試験場ノ行フ方法

水産試験場ニ於テハ前記ノ外更ニ左ノ試験ヲ行ハントス。

一、夏季ニ於ケル牡蠣ノ活力試験

(1) 目 的

環境ノ變化ニ伴フ牡蠣ノ生活力ノ變化ヲ研究スルモノトス。

(2) 方 法

「ガルトソツフ」氏法ニ依リ一定時間内ニ鰓ヲ通過スル水量ヲ測定スルモノトス。

(A) 鹹度ヲ一定シ水溫ヲ種々ニ變化セシメタル場合

(B) 溫度一定シ鹹度ヲ種々ニ變化セシメタル場合

(C) 水溫及鹹度ヲ共ニ夫々組合セ變化セシメタル場合

二、牡蠣ノ斃死分解生成物ノ研究。

(1) 目 的

牡蠣ノ被害ハ斃死ニ依リテ生成スル物質ニ依リ二次的ニ被害ヲ擴大スル傾向アルガ如キヲ以テ之ガ關係ヲ研究セントス。

(2) 調査事項及方法

(A) 斃死牡蠣ノ分解ニ依リテ生成スル物質ノ種類及性質

(B) 牡蠣ノ斃死分解生成物ガ生存牡蠣ニ及ボス影響

(C) 水槽内ニ於テ實驗セントス

三、人爲的ニ致死セシメタル牡蠣ノ解剖的研究

(1) 目 的

毒物其ノ他ノ人爲的方法ニテ致死セシメタルモノト、天然ニ於ケル斃死牡蠣トヲ解剖シテ比較研究セントス。

(2) 方 法

常態ノ牡蠣ト異狀の症狀ノモノヲ解剖シ各組織ヲ吟味スルモノトス。

四、産卵前後ノ生殖腺其他ノ組織研究

(1) 目 的

連絡試験調査ニ關スル各種通知事項

常態ニ於ケル牡蠣ト斃死牡蠣トヲ組織學的ニ比較研究スルモノトス。

(2) 方法

常法ニ依リ切片ヲ作り染色シテ比較研究スルモノトス。

五、各地養蠔場ニ於ケル水質ノ比較研究

(1) 目的

各地養蠔場ニ於ケル水質ノ定量分析ヲ行ヒ被害ノ起ル地ト起ラザル地トノ水質ノ差異ヲ比較研究セントス。

(2) 方法

常法ニ依リテ左ノ成分ヲ分析研究スルモノトス。

鹽分、窒素、磷酸、「カルシウム」、「マグネシウム」、加里、硅酸。

六、かきノ海水比重ニ對スル生活力試験

恒温槽ニヨリ各種海水比重ニ對スル、かきノ生活力ヲ試験セントス。

五、雜 錄

(一) 昭和五年度施行ノ連絡試験調査概覽

一、漁具改良試験

神奈川	大謀網浮力利用試験
静岡	同上
兵庫	施行セズ
長崎	底曳網々口擴大試験
千葉	中層曳網試験
宮城(氣仙沼分場)	中層曳網試験
青森	未着手
山口	巾着網改良括結法試験
宮崎	中層曳網試験(まぐろ)
關東廳	實施ニ至ラズ
水産試験場	上層曳網試験(水槽試験) 中層曳網試験(水槽試験) 中層曳網(水槽及實地試験) 底曳網々口擴大試験

各連絡府縣ヨリ報告大體完了シタルヲ以テ取攝中

三、漁業連絡試験

東京府	まぐろ	かつを	さば	さんま
小笠原	施行	施行セズ		
京都				
神奈川	施行			
兵庫				
長崎	かぢき延縄			
新潟	施行			
千葉	施行			
茨城	施行			
静岡	施行			
愛知	施行(延縄)			
三重	施行			
宮城	施行(延縄)			

二、遠洋漁業基礎調査(第一次調査)

昭和五年度施行ノ連絡試験調査概覽

宮城(氣仙沼)	施行	施行
岩手	施行	施行
福島	施行	施行
青森	施行	施行
秋田	施行(延縄)	施行(延縄、釣、流網)
山形	施行	施行
福井	施行(延縄)	施行
島根	施行	施行(漁具流失不能)
山口	施行	施行(一隻旋巾着網)
富山	施行	施行
鳥取	施行	施行
和歌山	施行	施行
徳島	施行	施行
香川	施行	施行
高知	施行	施行
大分	施行(延縄)	施行
佐賀	施行	施行(延縄)
熊本	施行	施行
宮崎	施行	施行
鹿児島	施行	施行
沖縄	施行(延縄)	施行

北海道 施行  
朝鮮總督府 施行(延縄、流網)  
忠清南道 施行(あち流網)  
四、海洋調査 (海洋調査要報第四十六、七、八報参照)  
五、漁場細密調査  
廣島、宮崎縣ニテ施行中。水産試験場ハ五年七、八月ニ耳リ京都經ケ岬以北津輕海峡ニ至ル海區ニ就キ底棲生物及底質ノ調査ヲ行ヒタリ、之ヲ以テ第一期計畫ナル本土、四國、九州ノ全沿海ニ於ケル調査ヲ完了シタルヲ以テ、専ラ資料ノ整理取纏中ナリ。(海洋調査要報第四十八報参照)  
六、ぶりに關スル海洋調査 (海洋調査要報第四十六、七、八報参照)  
七、淺海利用試験調査 (現況調査)  
長崎 すみのかき 調査中  
新潟 報告了  
茨城 報告了

宮城	調査了	取纏中	未了	取纏中	鹿兒島	報告了	報告了	報告了
青森	未了	未了	未了	未了	熊本	まがき報告了	報告了	報告了
山口	まがき報告了	報告了	報告了	報告了	島根	報告了	報告了	報告了
徳島	調査未了	報告了	報告了	報告了	京都	報告了	報告了	報告了
臺灣總督府	調査了	報告了	報告了	報告了	福井	報告了	報告了	報告了
關東廳	報告了	報告了	報告了	報告了	富山	報告了	報告了	報告了
北海道	報告了	報告了	報告了	報告了	新潟	報告了	報告了	報告了
岩手	報告了	報告了	報告了	報告了	山形	報告了	報告了	報告了
福島	報告了	報告了	報告了	報告了	秋田	報告了	報告了	報告了
千葉(内灣)	報告了	報告了	報告了	報告了	樺太	まがき報告了	報告了	報告了
東京(小笠原)	報告了	報告了	報告了	報告了	咸鏡北道	報告了	報告了	報告了
神奈川	報告了	報告了	報告了	報告了	江原道	報告了	報告了	未了
靜岡	報告了	報告了	報告了	報告了	慶尙北道	まがき報告了	報告了	報告了
愛知	報告了	報告了	報告了	報告了	慶尙南道	報告了	報告了	報告了
大阪	いたぼがき報告了	報告了	報告了	報告了	全羅南道	報告了	報告了	報告了
兵庫	報告了	報告了	報告了	報告了	全羅北道	まがき報告了	報告了	報告了
岡山	まがき報告了	報告了	報告了	報告了	京畿道	まがき報告了	報告了	報告了
愛媛	まがき報告了	報告了	報告了	報告了	黃海道	かき報告了	報告了	報告了
香川	報告了	報告了	報告了	報告了	平安北道	報告了	報告了	報告了
高知	報告了	報告了	報告了	報告了	臺北州	報告了	報告了	報告了
大分	報告了	報告了	報告了	報告了	南洋廳	報告了	報告了	報告了





其他、高雄州、臺東廳、花蓮港廳、澎湖廳等へまがきニ就テ報告アリ。水産試験場ハ報告整理中。

七、淺海利用試験調査 (發生、生育條件調査)

長崎	かき	あさり	あはび	あさくさのり
新潟	いたばがき(生育)	施行	施行	施行
千葉	あさり	あはび	あさくさのり	
千葉(内灣)	あさり	あはび	あさくさのり	
三重	あさり	あはび	あさくさのり	
愛知	あさり	あはび	あさくさのり	
宮城	あさり	あはび	あさくさのり	
岩手	あさり	あはび	あさくさのり	
廣島	あさり	あはび	あさくさのり	
山口	あさり	あはび	あさくさのり	
徳島	あさり	あはび	あさくさのり	
愛媛	あさり	あはび	あさくさのり	
福岡	あさり	あはび	あさくさのり	
佐賀	あさり	あはび	あさくさのり	
熊本	あさり	あはび	あさくさのり	
朝鮮總督	あさり	あはび	あさくさのり	

生熟期調査

慶尚南道	まがき施行	施行		
黄海道	まがき施行	施行		
臺灣總督	まがき施行	施行		
水産試験場	かき(東京灣)	いたばがき(二見)		

七、淺海利用試験調査 (養殖試験)

東京	かき(垂下養殖)	あさくさのり	あさり
神奈川	あさくさのり	あさり	
兵庫	あさくさのり	あさり	
宮城	あさくさのり	あさり	
岩手	あさくさのり	あさり	
島根	あさくさのり	あさり	
岡山	あさくさのり	あさり	
廣島	あさくさのり	あさり	
山口(瀬戸内)	あさくさのり	あさり	
和歌山	あさくさのり	あさり	
徳島	あさくさのり	あさり	
香川	あさくさのり	あさり	
愛媛	あさくさのり	あさり	

大分	垂下養殖	海苔垂下養殖
熊本	採苗試験	
關東州	施行	
水産試験場	沖合垂下養殖(金澤沖)	
	採苗試験(大長分場)	
	いたばがき(二見)	
	同 採苗(二見)	

八、内水面利用試験調査

京都	現況調査及種苗調査	河川利用試験	湖沼利用試験
神奈川	現況調査(大堰池)	稚鮎移植	
兵庫	現況(竹田川、佐沼川、久下川、東谷川)	小鮎及稚鮎移植	
長崎	調査中	堰堤及魚梯廻上調査報告了	
新潟	色鯉調査	魚梯廻上調査	
群馬	現況(大沼、榛名湖、利根川)	河鮎、小鮎移植	
愛知	現況調査(矢作川、寒狭川)	稚あゆ移植	
山梨	河川調査(桂川、荒川)		
滋賀	湖沼調査(西湖其他)		
	種苗調査(小鮎)	醒ヶ井宗谷川	小鮎生態調査
	現勢琵琶湖其他	(にちます)	

昭和五年度施行ノ連絡試験調査概覽

岐阜	現況了(河川)	小鮎移植	
宮城	現況(ます、あゆ)	實施ノ見込ナシ	
岩手	種苗調査調査中	未着手	
青森	小河原沼、十二湖了、虹鱒種苗調査了	未着手	
山形	調査了	小鮎移植	
福井	調査了	小鮎移植	
石川(増殖場)	四河川、及五湖調査報告了、種苗調査あゆます了	稚鮎移植	
鳥取	現況報告了	實施ニ至ラズ	實施ニ至ラズ
島根		小鮎移植、あめのうを、かはます放流	
岡山		小鮎移植	
山口(瀬戸内)		小鮎移植	
分場)		稚鮎池中飼育	
和歌山	吉野川農川了	稚鮎移植	
徳島	種苗調査了		
鹿兒島	現況報告了		
千葉	現勢(印旛沼、内灣分場)		
關東廳	報告了		

水産試験場

整理中

稚あゆ移殖

ひめます移殖  
(青木湖)

九、人工餌料試験調査

東京	うなぎ	さけます類	さけ、ます類	現況調査
京都	鹹水養成	稚魚飼育	親魚養成	
神奈川	施行	虹鱒		
兵庫	施行			
長崎				
新潟	着手ニ至ラズ		ます及虹ます	
茨城		さけ		
愛知		ます類		
群馬	未着手			
山梨	施行			
滋賀		にちます	にちます	
岐阜		ます		
長野		にちます		
宮城				
岩手				
青森		にちます		

秋田	施行	米國河鱒	未着手	報告了
石川				
鳥取	施行	實施ニ至ラズ		
島根	施行	實施ニ至ラズ		
徳島	實施ニ至ラズ	實施ニ至ラズ		
愛媛	施行			
熊本	施行			
宮崎	施行			
北海道		にちます		
臺灣總督	施行			
關東廳	施行			
水産試験場	施行(豊橋)	にちます	着手ニ至ラズ	報告了
	分場)	(木崎分場)	ズ	整理中

一〇、水質汚濁ト水族トノ關係調査

滋賀 實驗的研究、現場調査、漁業及漁場調査、工場調査等  
富山 實驗用水槽ニヨル調査研究。

一一、貝類加工製品試験

千葉 あさり、はまぐり實施ニ至ラズ  
愛知 あさり味付罐詰

廣島 かき水煮罐詰實施ニ至ラズ

福岡 あさり及かき罐詰(クラムライス、トマトクラム、  
トマトオイスター、水煮等ノ製造)

佐賀 あさり罐詰(紅燒煮)

熊本 施行ニ至ラズ

水産試験場 かき冷凍中ニ於ケル化學的成分ノ變化

一二、いわし加工製造試験

京都 水煮罐詰 トマト漬罐詰 油漬罐詰  
神奈川 油漬罐詰  
兵庫 油漬罐詰  
長崎 油漬罐詰  
新潟 水煮罐詰(脱水)  
千葉 水煮罐詰  
茨城 着手ニ至ラズ  
秋田 水煮罐詰 トマト、サーヂン罐詰  
石川 トマト、サーヂン罐詰  
山口 水煮罐詰  
和歌山 施行ニ至ラズ  
熊本 水煮罐詰  
北海道 水煮罐詰

トマト漬罐詰 鹽蔵いわし製造  
昭和五年度施行ノ連絡試験調査概覽

水産試験場 水煮罐詰

一三、水産物冷凍冷蔵適温試験

東京 生海苔冷蔵試験  
愛知 かき冷凍適温試験  
佐賀 かき冷凍試験  
沖繩 かつを冷蔵及冷凍適温試験  
水産試験場 基礎試験

一四、水産物乾燥試験調査

東京 アドソール海苔乾燥試験 電熱海苔乾燥試験  
長崎 熱風吸出式乾燥機試験(いわし、がんぞうびらめ)  
千葉 アドソール乾燥(さんま)  
愛知 乾燥機調査報告了  
岩手 今村式乾燥機試験(うか)  
島根 アドソール乾燥試験(いわし、いか、かれひ)  
廣島 熱風吹込式乾燥機試験(いわし) 松井式電熱利用乾  
燥機試験(あさくさのり)  
愛媛 熱氣吹込式乾燥機試験(いわし丸乾及味淋乾、チリ  
メン煎子)  
大分 火力乾燥機試験(いわし、のり)

北海道 蒸気管乾燥機(コノバック式改良)調査(ニヶ所)  
水産試験場 熱風乾燥試験(いわし、あぢ)

一五、製造連絡基礎調査

千葉 脱脂試験及脂肪酸化防止試験 罐詰内容物ノ熱傳  
導試験(乾燥度ト貯藏期間ニ關スル試験ハ未着手)  
愛知 乾燥度ト貯藏期間ニ關スル試験ハ施行ニ至ラズ  
富山 乾燥度ト貯藏期間ニ關スル試験(煮干鱈)  
山口 脂肪酸化防止試験(罐詰内ノ熱傳導試験ハ施行ニ  
至ラズ)  
水産試験場 實施ニ至ラズ

昭和六年十月二十日 印刷  
昭和六年十月二十二日 發行

東京市深川區越中島町  
水産試験場

印刷者 東京市神田區今川小路一ノ二  
山縣精一

印刷所 東京市神田區今川小路一ノ一  
山縣製本印刷株式會社



終

